

私たちからはじめるメッセージ

# 心と心をむすぼう

—いじめ対応プログラム実践事例集—

大阪府教育委員会

平成20年7月



## はじめに

いじめとは、「学校の内外を問わず、児童生徒が一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」であり、大人から見えにくいところで起こり、発覚したときには重篤な事態に陥ってしまう可能性があります。そのため、学校においては、日常の教育活動のなかで、未然防止のための取組みの充実を図るとともに、事象が生じた場合は、その速やかな解決はもとより、子どもの立ち直りや保護者をサポートするなど迅速で的確な対応が重要です。また、深刻ないじめ等を理由に転校が可能であることを入学当初から保護者・児童生徒に周知しておくことが求められます。

大阪府教育委員会は、平成18年3月にいじめ防止指針「すべての児童生徒がかけがえのない存在として尊重される学校づくりのために」を策定し、「いじめは絶対に許されない」、「すべての児童生徒の心の訴えに学ぶ」等の基本的な姿勢及び府としての取組みの推進方向等を示しました。

そして、平成19年6月には、いじめ事象が生じた場合の学校の対応を、時系列にまとめた「いじめ対応プログラムⅠ」（いじめSOS・チームワークによる速やかな対応をめざして）を、さらに、8月には、いじめの未然防止を図るため、一人ひとりの子どもがいじめを乗り越える力をはぐくむプログラムを、「いじめ対応プログラムⅡ」（「いじめNo!」宣言 子ども・大人・地域 みんなの力で）として作成し、府内すべての公立学校（政令市を除く）に配布しました。

さらに、「いじめ対応プログラム」の活用を図るため、府内41市町村において、教職員を対象にプログラムの理念や活用に向けた協議等を行う研修を実施し、府内すべての公立学校から2,448名の担当教職員の参加を得ました。その後、府内の学校において児童生徒を対象に実践が行われ、すべての市町村よりおよそ200の実践事例が報告されました。

本冊子は、これらの実践事例の中から、1章「学級・学年での取組み」、2章「様々な場面での取組み」に大別し、特色ある41の実践事例をまとめたものであり、すべての学校において、冊子を活用され、創意工夫ある取組みが深まり、広がることを願っております。

平成20年7月

大阪府教育委員会

# 「いじめ対応プログラム」実践事例集／目次

## 第1章 学級・学年での取組み

### (1) 心の居場所をつくる力をはぐくむ実践

|     |                                 |              |    |
|-----|---------------------------------|--------------|----|
| 事例1 | 友だちへ「言葉のプレゼント」を贈る (小学校・低学年)     | 河南町立大宝小学校    | 4  |
| 事例2 | シールが増えるとうれしいな (小学校・中学年)         | 熊取町立中央小学校    | 6  |
| 事例3 | 言ってみて良かった！聞いてみてわかった！ (小学校・中学年)  | 東大阪市立孔舎衛東小学校 | 8  |
| 事例4 | 新しいクラスで安心できる関係をつくる第一歩 (小学校・高学年) | 松原市立布忍小学校    | 10 |
| 事例5 | お互いを知るために、柔らかな空間をつくる (中学校・1年生)  | 能勢町立東中学校     | 12 |

### (2) ストレスとうまくつきあう力をはぐくむ実践

|     |                                 |            |    |
|-----|---------------------------------|------------|----|
| 事例6 | 自分が安心できる場所・時間・方法って？ (小学校・低学年)   | 阪南市立東鳥取小学校 | 16 |
| 事例7 | クラスの中に自分の心の居場所をつくるために (小学校・中学年) | 大東市立四条南小学校 | 18 |
| 事例8 | 中学校との段差解消に向けた仕掛け (小学校・高学年)      | 交野市立長宝寺小学校 | 20 |
| 事例9 | プレッシャーと上手につきあおう！ (中学校・2年生)      | 吹田市立佐井寺中学校 | 22 |

### (3) 感情を適切に表現する力をはぐくむ実践

|      |                                 |            |    |
|------|---------------------------------|------------|----|
| 事例10 | 友だちを信じ、自分に自信を持つために (小学校・中学年)    | 八尾市立亀井小学校  | 26 |
| 事例11 | 気分が良くなる言葉と悪くなる言葉 (小学校・中学年)      | 岸和田市立城内小学校 | 28 |
| 事例12 | 心が温まる言葉、心が痛む言葉、何が違うの？ (小学校・高学年) | 四條畷市立田原小学校 | 30 |
| 事例13 | ヤバイって、どんな意味だっけ (中学校・1年生)        | 熊取町立熊取中学校  | 32 |
| 事例14 | 2冊の絵本を教材に加える (中学校2・3年生)         | 河南町立中学校    | 36 |

### (4) 違いを認めてともに考える力をはぐくむ実践

|      |                                 |            |    |
|------|---------------------------------|------------|----|
| 事例15 | したらあかん、ではなく、～しようの声かけを (小学校・中学年) | 高石市立高陽小学校  | 40 |
| 事例16 | 自分で「〇〇宣言」をしよう！ (小学校・高学年)        | 羽曳野市立古市小学校 | 42 |
| 事例17 | 遊び、それとも、いじめ？ 誰が決めるの？ (小学校・高学年)  | 八尾市立北高安小学校 | 44 |
| 事例18 | 心の境界線、同じ場面でも感じ方はそれぞれ (中学校・1年生)  | 大東市立四条中学校  | 46 |
| 事例19 | 私の「いじめNO！宣言」につなぐ (中学校・3年生)      | 大東市立住道中学校  | 48 |

## (5) 仲間とつながる力をはぐくむ実践

|       |                                 |             |     |
|-------|---------------------------------|-------------|-----|
| 事例 20 | 言葉の大切さをロールプレイで実感する (小学校・高学年)    | 阪南市立箱作小学校   | 5 4 |
| 事例 21 | 「私」からはじめるメッセージで自分を伝える (小学校・高学年) | 阪南市立波太小学校   | 5 6 |
| 事例 22 | 教員のロールプレイをもとに考える (中学校・2年生)      | 阪南市立尾崎中学校   | 5 8 |
| 事例 23 | もめ事だって解決できるさ (中学校・2年生)          | 松原市立松原第七中学校 | 6 0 |
| 事例 24 | 相手を感じ、「私メッセージ」を言える人間に (中学校・2年生) | 羽曳野市立誉田中学校  | 6 2 |

## (6) 仲間と支え合う力をはぐくむ実践

|       |                                 |             |     |
|-------|---------------------------------|-------------|-----|
| 事例 25 | 心と心をむすぼう 一心のノートとつないでー (小学校・低学年) | 枚方市立五常小学校   | 6 6 |
| 事例 26 | 自分のことを気軽に話してみよう (中学校・1年生)       | 大阪狭山市立第三中学校 | 6 8 |
| 事例 27 | 私の良い面を伝えてくれる友だちがいる! (中学校・2年生)   | 東大阪市立盾津東中学校 | 7 0 |
| 事例 28 | いじめの定義を知っていますか? (中学校・3年生)       | 富田林市立第二中学校  | 7 2 |

## 第2章 様々な場面での取組み

### (1) こども支援コーディネーター、養護教諭などによる実践

|       |                                  |            |     |
|-------|----------------------------------|------------|-----|
| 事例 29 | 心の保健指導、自尊感情とコミュニケーション力 (小学校・全学年) | 八尾市養護教諭部会  | 7 8 |
| 事例 30 | トラブル続発! 子どもに感情のコントロールを (中学校・1年生) | 能勢町立西中学校   | 8 0 |
| 事例 31 | 黒板に人をからかう言葉が書いてあったが… (中学校・1年生)   | 高石市立取石中学校  | 8 2 |
| 事例 32 | 選択授業の内容とリンクさせながら (中学校・2年生)       | 東大阪市立小阪中学校 | 8 4 |
| 事例 33 | 子どもたちの表情が明るくなった! (中学校・支援学級)      | 太子町立中学校    | 8 6 |
| 事例 34 | 全学年で生徒指導主事がプログラムを実施! (中学校・全学年)   | 摂津市立第五中学校  | 8 8 |

### (2) 地域等をフィールドとした実践

|       |                               |                          |       |
|-------|-------------------------------|--------------------------|-------|
| 事例 35 | 中学生から小学生へ、いじめをなくすメッセージ (小中連携) | 寝屋川市立第一中学校<br>東小学校・中央小学校 | 9 2   |
| 事例 36 | 何ができるか、みんなで考えてみよう (中学校・生徒会)   | 貝塚市立第四中学校                | 9 4   |
| 事例 37 | ストレッチはコミュニケーション! (中学校・部活動)    | 東大阪市立弥刀中学校               | 9 8   |
| 事例 38 | あいこじゃんけんから円陣バレーへ (適応指導教室)     | 大阪狭山市適応指導教室              | 1 0 0 |
| 事例 39 | 自然の中でココロをひらく (適応指導教室)         | 高石市立教育研究センター             | 1 0 2 |
| 事例 40 | 地域+学校=大人のネットワークづくり (地域・保護者)   | 泉佐野市青少年問題講演会             | 1 0 4 |
| 事例 41 | 地域ぐるみで「いじめNO!」宣言 (地域・保護者)     | 松原市立松原第五中学校区<br>地域教育協議会  | 1 0 6 |

### 発展 高等学校におけるピア・メディエーションの取組み

|   |            |       |
|---|------------|-------|
| みんなの手で、もめごとSTOP! やんちゃくれパワーのスキルアップで、<br>いじめ、トラブル撲滅や!! (高等学校・全学年) | 大阪府立茨田高等学校 | 1 1 0 |
|---|------------|-------|

## ■ 本冊子の構成の特徴と活用 ■

- 第1章では、学級・学年での実践をいじめを乗り越える6つの力ごとに整理するとともに、小学校低学年から中学校3年生までのすべての学年を網羅し、特色ある実践を掲載しています。
  
- 第2章では、生徒会、部活動、適応指導教室、地域教育協議会など学級活動以外で、それぞれの場面に応じた特色ある実践を掲載しています。
  
- それぞれの実践事例の構成については、今後の各学校における取組みに活かせるよう工夫しています。
  - ・「全体の取組みの概要」では、全体の流れの中で、事例の位置づけを明確にすることをねらいとしています。
  - ・「展開例」については、指導のねらいと学習の展開及び指導上の留意点・工夫を掲載しました。
  - ・「子どもの反応」として、実践を子どもたちがどのように受けとめ、感じたかを掲載しました。
  - ・「実践者の声」については、プログラムを実施した後の指導者の感想等、他の教職員が取り組む際に参考となるものを掲載しました。

## 第1章 学級・学年での取組み

### 一人ひとりをエンパワメントする6つの力

いじめをなくすためには、日常的な教育の営みの中で、一人ひとりの子どもをエンパワメントする必要があります。たとえば、自己肯定感の高い子どもはいじめに加担しにくく、また、いじめにあった時に対処する力を持っていると言われています。子どもが、いじめ行為や暴力的な行動を選択せずに対応するためには、ストレスの対処の仕方を自分なりに身につける必要があります。

子ども自身がいじめを乗り越える力を身につけさせる取組として、一人ひとりの子どものエンパワメントのために6つの力を提案し、30のプログラムを紹介しています。

- (1) 心の居場所をつくる力をはぐくむ実践
- (2) ストレスとうまくつきあう力をはぐくむ実践
- (3) 感情を適切に表現する力をはぐくむ実践
- (4) 違いを認めてともに考える力をはぐくむ実践
- (5) 仲間とつながる力をはぐくむ実践
- (6) 仲間と支え合う力をはぐくむ実践





## (1) 心の居場所をつくる力をはぐくむために

学級や仲間集団が、「あなたがいてくれてうれしい」と無条件に存在を認めてくれる場となることはとても大切です。所属感が満たされることで、子どもの心は安定し、このことが、攻撃性の低下、いじめの加害行為の抑止や暴力の防止につながります。

ここで実践されたプログラムは、集団の中で子どもたちが互いに自己肯定感を高め合うことで、所属感を満たすことをめざしています。仲間の良いところに気づき、他者を肯定的に見ることや、自分の良いところに気づき、自分を肯定的にとらえることを通して、学級の中での自分の心の居場所をつくる力をはぐくみます。

### ■ 実践事例 ■

- |     |                                 |              |
|-----|---------------------------------|--------------|
| 事例1 | 友だちへ「言葉のプレゼント」を贈る (小学校・低学年)     | 河南町立大宝小学校    |
| 事例2 | シールが増えるとうれしいな (小学校・中学年)         | 熊取町立中央小学校    |
| 事例3 | 言ってみて良かった！聞いてみてわかった！ (小学校・中学年)  | 東大阪市立孔舎衛東小学校 |
| 事例4 | 新しいクラスで安心できる関係をつくる第一歩 (小学校・高学年) | 松原市立布忍小学校    |
| 事例5 | お互いを知るために、柔らかな空間をつくる (中学校・1年生)  | 能勢町立東中学校     |

# 友だちへ「言葉のプレゼント」を贈る

- 学校名 河南町立大宝小学校
- 実施学年 第1学年（46名）、第2学年（42名） 計88名
- 実施日時 平成19年12月 【道徳・特別活動】
- 実施場所 各教室・教室前廊下

## 1) 全体の取組みの概要

1、2年生では、人権教育の年間目標「みんな仲良く思いやりのもてる子どもを育てる」のもと、仲間づくりに取り組んでいる。今回は、道徳の時間に「友だち」について考えさせ、その後、学級会で、1年生では「友だちの良いところを見つけよう」、2年生では「友だちへの言葉のプレゼント」というテーマで、学級全員のいいところを見つけて書かせた。それを模造紙に貼り教室前廊下に掲示し、校内人権作品展として2学期末懇談会で保護者に紹介した。

## 2) 展開例

- プログラム名 「仲間の良いところを見つけよう！！」
- ねらい 仲間の良いところに気づき、友だちを否定的に見るのではなく、肯定的に見る態度を養う。一人ひとりの良いところを見つけるという体験を通して、周りにいる人たちを尊重する気持ちや温かい人間観を培い、学年・学級での仲間づくりに役立てる。

| 時間         | 展開  | 指導上の留意点・工夫  |
|------------|---|---|
| 1限<br>道徳   | ①「友だち」について考える。<br>・友だちがいなかったらどうなるか、考える。<br>・友だちの良いところを見つける。<br>②「友だちになるために」を歌う。（1年生）  | ①友だちのいいところを見つけることで、お互いが認め合うことの大切さを分からせるようにする。   |
| 2限<br>特別活動 | ③友だちの良いところや好きなところを見つけ、紙に書く。<br>（例）<br>「〇〇ちゃんは、手をつないでくれる」<br>「〇〇ちゃんは、ドッジボールが強い」<br>「〇〇ちゃんは、優しくて励ましてくれる」<br>④模造紙に貼り付けて、掲示用の作品として仕上げる。 | ③書く相手を自由に選ばせたり、同グループ内で書かせたり、あらかじめ書く対象を決めておくなど、学級の実態に応じて考える。<br>・抽象的な内容でなく、なるべく具体的な事実を書くように指示する。<br>・否定的な表現が出ない配慮が必要である。<br>・全員に行き渡り、書く子どもが同じ人数になるように工夫する。 |

|              |  |  |
|--------------|--|--|
| <p>期末懇談会</p> | <p>⑤校内人権作品展を開催する。<br/>・教室の廊下に展示する。</p> | <p>⑤期末懇談会に合わせて、作品を展示し、保護者に紹介し、感想を募る。</p> |
|--------------|--|--|

### 3) 子どもの反応

#### ○子どもの感想より

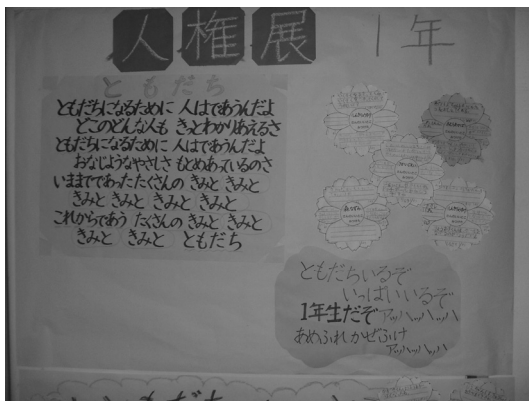
- ・自分ではなかなか自分のいいところを見つけられなかったけど、お友だちに見つけてもらった。
- ・自分のいいところを言ってくれて、「思いやりのある子だな」と思った。
- ・「書いて」と声を掛けてくれたのが嬉しかった。
- ・お友だちの良いところを見つけるために文章で表そうとすると、じっくりとその子の事を考える時間を持つことができた。書くときは少し緊張したが、書いていると楽しくなってきた。



### 4) 実践者の声

○最初は何を書いていいかとまどっていた子どももいたが、他の子どもが書いたものをお互いに交流する中で、進んで楽しく書くようになった。

○学級内の輪に入りにくい子どもに、この取組みを通して自分から輪の中に入るきっかけになってほしいと考えた。自分からなかなか声が掛けられないようだったが、周りの子どもが自然と気づかってくれ、輪の中でお互いの良いところを見つけることができた。



○子どもの輪が広がっているこの時期に、友だちの存在について考えることは意義深いものである。もらって嬉しい心温まる「言葉」があることを気づかせる良い機会になった。全体を通して、取組み後の子どもたちの柔らかい表情が印象的だった。教員が気づかないような点を子どもが見つくて、逆にこちらが教えられるという面があった。

○校内人権作品展で子どもの作品を展示したところ、保護者から「子どもって大人が気付かないようなことに着目して、うまく書いていますね。」という感想が寄せられた。

## シールが増えらうれしいな

- 学校名 熊取町立中央小学校
- 実施学年 第3学年（35名）
- 実施日時 平成19年12月 【道徳】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

子どもに、自らを大切に、他者を思いやる気持ちをはぐくむことは、いじめをはじめとする問題行動の未然防止とともに、豊かな心を育成する上でとても大切である。日頃、学校等でともに生活している仲間の良いところを伝え合う機会が少なく、心で感じていてもなかなか言葉で表現できないことが多い。そこで、2学期の学級のまとめとして、いじめ対応プログラムを活用し、子どもどうしがお互いの良いところを見つけあい、ワークシートを活用し、相手に伝える体験を通して、自他を肯定的に見つめ直すとともに、自尊感情の育成を図ることを大切にしたい。

## 2) 展開例

- プログラム名 「仲間の良いところを見つけよう！！」
- ねらい
  - ・仲間の良いところに気づき、人を肯定的に見る視点を養う。
  - ・本人が気づかないことを周りの友だちが気づき適切に伝える。
  - ・他の人を尊重する気持ちを育てるとともに、自尊感情を高める。

| 時間  | 展開  | 指導上の留意点・工夫   |
|-----|---|--|
| 5分  | ①ワークシート*の書き方（基本的な手順、ルール、ふざけない等）を伝え、名前の部分のみ記入する。<br>・机の移動（班の形4人×9班）  | ①良いところを探すことを強調した。  |
| 30分 | ②友だちの良いところを見つけ、友だちのワークシートに記入し、シール貼り付け欄に1枚のシールを貼る。<br>・児童に50枚ほどのシールと鉛筆を持たせ、順番に班を回る。<br>・すでに誰かが書いている場合は、賛成であれば、1枚シールを追加して貼る。<br>・さらに、良いところがあれば、追記しシールを貼る。 | ②項目が少ない児童には、担任等が書き込む。<br>・必ず一定方向に回る。時間があつたら2周目も許可する。<br>(2周目では一度シールを貼った児童にも貼ってよいこととした。)<br>・抽象的な内容が多かったため、「具体的なことも書いてよい」と指導する。 |
| 10分 | ③ふりかえり<br>・書かれた内容、シールを見て、感想を言いあう。   |  |

### 3) 子どもの反応

Aさん：「先生！Bさんが遊びに誘ったときのことを書いてくれた。うれしい。」  
担任がBさんに聞くと、「いつもあんまり遊ばない友だちのAさんが誘ってくれてうれしかった。」と言う返事がかえってきた。「また、一緒に遊ぼうな。」とお互い誘い合っていた。



Cさん：「自分のシールに名前を書きたいけどいいですか？」 担任：「どうして？」  
Cさん：「相手に私が書いたって知らせたいねん。」 担任：「わかった。いいよ。」  
仲良くなりたいと思っている相手に自分の存在を知らせたかったようだった。

Dさん：「ぼくは帆の整理をしていただけやけど、良いことをしていたと認めてくれた人がいたんだなとうれしくなった。これからも続けてみようとする気が出てきた。」

### 4) 実践者の声

- 少しふざけてしまう子どももいたが、大半はワイワイと話をしながら真剣に取り組んでいた。日々の遊びの中からも良いところを発見しており、子どもたちの知らない一面も見られた。書いてもらったものをみて、照れてしまう子どももいたが、どの子どもも良い顔をしていたので良かった。「自分を好きになる」や「自分を知る」に結びつけていけたらと思う。
- 一つのプログラムだけではなく、いくつかのプログラムを関連づけて実践すると、子どもの顔がより見えてくると思った。

#### 参考 ※ ワークシート

| 3年 組 ( ) さんのいいところ                             |   |
|---|---|
| いいところ   | シール   |
| (例)<br>・～を手伝ってくれた<br>・やさしいところ<br>・～がうまい<br>など | (シールを貼る欄)<br><br>※シールは、色つき(5色)のシール、数百枚で2百円程度のものを購入した。 |

# 言ってみて良かった！聞いてみてわかった！

- 学校名 東大阪市立孔舎衛東小学校
- 実施学年 第3学年（88名）
- 実施日時 平成19年11月 【総合的な学習】
- 実施場所 各教室

## 1) 全体の取組みの概要

3年生は、元気で活気があり、指導者からの働きかけに対する反応も良いが、人の話を集中して聞くことが苦手で、自分が何か言いたいと思うとすぐに声に出してしまうことが多い。そのため、「話す」（発表する・説明する等）活動の中で、「聞く」ことに重点をおいたさまざまな手立てを講じてきた。

今回、【総合的な学習】の時間を活用して実施した学習のテーマである「自分を好きになる」では、「自分の好きなところ」を数多く見つけるということをねらいとし、さらに子どもに発表させ、周りの子どもがそれを聞き、受けとめるという楽しい活動になることをめざした。

## 2) 展開例

- プログラム名 「自分を好きになる」
- ねらい 自分の好きなところを言葉に表し、自己肯定感を高めるとともに、自分を“かけがえない存在”と感ずることで、一人ひとりの自尊感情をはぐくむことにつなげたい。

| 時間  | 展開   | 指導上の留意点・工夫   |
|-----|--|--|
| 5分  | (導入)   |  |
| 30分 | ①「自分を好きになる」と板書する。<br>(展開)<br>②ワークシートを配る。<br>「私は私のことが好きです。なぜなら、〇〇だからです。」の〇〇の部分それぞれで書く。<br>〈ルール〉<br>・お互いに見ないようにする。<br>・発表してもいい人は、ネームプレートを黒板に貼りに行く。<br>・何枚書いてもよい。 | ①子どもの表現をまず教員が受けとめるようにする。<br>②自分の好きなところを見つけ、自由に発言できるような言葉かけをする。 |

|     |   |   |
|-----|---|---|
| 10分 | ③発表する人の話を、よく聞く。<br>(整理)<br><br>④学習の感想を書く。 | ③無理に発表する感覚にならないよう留意する。内容よりも発表することを尊重するように言葉かけをする。<br><br>④今日の学習の感想を学級で交流し「自分を好きになる」学習がさらに発展するよう働きかける。 |
|-----|---|---|

### 3) 子どもの反応

○子どもたちが書いた自分の好きなところ

◇家族から認められ、家族の大事な一員だと自覚できる時


- ・じぶんでごはんをつくること。
- ・あさごはんをかいに行くこと。
- ・そうじをすること。

◇友だちと一緒にいたり、友だちを助けた時

- ・まい日ともだちとあそぶところ。
- ・遊ぶときともだちがおくれていたから、まってあげたこと。

◇学校生活での自分の成長を見つけた時

- ・学校で音読するとき、みんなに聞こえるように大きな声を出して、まちがいをなく読んでいるところがいいところ。
- ・給食の時、一年生のときはのこしてたけど、三年生になったらおかずをのこさず、早くたべられることもできるようになったこと。

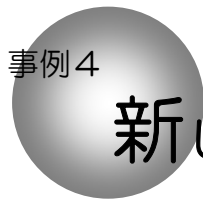


### 4) 実践者の声

○初めはみんなとまどっていたが、イメージが湧いて書き始める子どもの様子を見て、他の子どもも少しずつ書きはじめた。書きながらにこにこしてつぶやく子もいたので、こうした学習が子どもに合っているのだなと感じた。

○普段は、子どもにまず声をかけ、発問をして教えていくことが多いが、この授業では子どもを見つめることを大事にしようと学年で話し合った。書くことに熱中し、発表する子どもはまだ少ないが、発表を受けとめる表情がいつも以上に柔らかいことが印象に残った。子どもを引っ張るのでなく、子どものそばにいて対話することをめざして、学級だけでなく、学年の集団づくりを進めて行こうと学年で話し合った。





# 新しいクラスで安心できる関係をつくる第一歩

- 学校名 松原市立布忍小学校
- 実施学年 5年（31名）
- 実施日時 平成20年5月 【特別活動】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

|      |  |
|------|--|
| 1時間目 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「わたし発見、あなた発見」</div> <p>〈ねらい〉<br/>お互いの良さを認め合い、友だちを肯定的に見る視点を養う。</p> <p>〈展開〉<br/>○決まった文型を使っていくつかの柱に沿って、自己紹介をする。<br/>○自己紹介で、あらためて知った友だちのことや友だちの良さを伝え合う。<br/>○ふりかえり：あらためて知ったことや気づいたことについて、伝え合う。</p> |
| 2時間目 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「仲間の良いところを見つけよう！」</div> <p>本時（展開例参照）</p>   |

## 2) 展開例

- プログラム名 「仲間の良いところを見つけよう！！」
- ねらい 仲間の良いところに気づき、人を肯定的に見る視点を養う。また、一人ひとりの良いところを見つけるという体験を通して、周りにいる人たちを尊重する気持ちや、温かい人間観を培う。

| 時間  | 展開                                       | 指導上の留意点・工夫   |
|-----|--|--|
| 3分  | ①前時の復習（昨日の学習の感想を交流する）                    | ①自己紹介で改めて知った友だちのことや友だちの良さを伝え合ったことを思い出させる。  |
| 15分 | ②班ごとにグループを作り、「良いところカード」に友だちの良いところを書いていく。 | ②班の友だちに伝えたいことを書くように指示する。書き終わったら他の人に伝えても良いことを書くように指示する。<br><br>・書く内容は、事実と感想を書かせる。例えば、「自分がしてもらってうれしかったこと」や「親切にされたこと」、「見ていてその人のいいなあとしたこと」を書く。 |



|     |  |   |
|-----|--|---|
| 15分 | ③円状にイスを並べ班ごとに座り、友だちの良いところを交替で発表する。           | ・もらった人の気持ちになり、一枚ずつ丁寧に書かせる。<br>③班全員の顔が見えるように、輪になって座る。      |
| 10分 | ④ふりかえりをする。                                   | ・自分が見つけた良いところに、感情を表す言葉（うれしい等）をつけたす。<br>④本時の感想をカードに書かせる。   |
| 2分  | ⑤友だちが書いてくれた「良いところカード」を台紙に貼り、ファイルに綴り、各自で保管する。 | ・良いところを言われ、どんな気持ちになったかを交流する。<br>・うれしい気持ちになるために大切なことを話し合う。 |

### 3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・ちょっと照れくさかったけど、すごくうれしかった。
- ・友だちがぼくのことを「勉強をがんばっている」って言ってくれて、これからもがんばろうという気持ちになれたし、ぼくの気持ちもわかってくれてるねんって思った。
- ・友だちがこんなに私を見てくれているとは思わなかった。また、こんな学習をしたい。
- ・わたしは、新しいクラスでちょっと不安だったけど、みんなわたしのこと見てくれてるって思えたし、このクラスで友だちとがんばれそうな気がしてきた。
- ・友だちの良いところを見つけあげるとうれしい顔になるから、ぼくもうれしかった。



### 4) 実践者の声

○人間関係に自信のないAさんが、「Bさんは誰かが一人でいると必ず近くにいてくれる。」「Cさんは私が困っている時、声をかけてくれた。」と、友だちの優しさにふれた場面を伝えていた。言われた方も、言った方もうれしく感じる光景だった。

○学級替えがあり新しい学年に期待をもつ一方、友だちが自分のことをどう思っているかが不安な子どもたちが、この学習を通して、自分に自信をもっていく姿が見られ、新しい学級で安心できる関係をつくる一歩を踏み出したと考えている。このプログラム実施以降日常の終わりの会等で、多くの子どもたちが、友だちに対する優しい気持ちを見つけようとし、積極的に発表していく姿が印象的であった。



# お互いを知るために、柔らかな空間をつくる

- 学校名 能勢町立東中学校
- 実施学年 1年1組（33名）
- 実施日時 平成19年11月 【特別活動】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

小学校から中学校へ進み、初めての大きな学級集団と出会うなかで、どうしても気のあった小グループにまとまりがちになり、お互いの苦手な部分をカバーし、認め合いながら伸びていくという集団にはまだまだ育っていない現状がある。

そこで今回、2学期の学級集団の発展として、「わりばしを支援しよう」というプログラムを導入として実施し、緊張感を解きほぐし、その後、互いの良いところをカードに記入させ、「友だちの良いところを見つけよう」という流れで実施した。

## 2) 展開例

- プログラム名 「わりばしを支援しよう」「仲間の良いところを見つけよう！！」
- ねらい 自分と合わない相手とは、無理して合わせる必要がないと考えている子どもが多いなか、相手を気遣い、相手のペースを尊重しながら、人間関係を築くことの大切さを学ばせる。

| 時間  | 展開  | 指導上の留意点・工夫   |
|-----|---|--|
| 5分  | ①プログラムの説明を聞く。                                       | ①プログラムへの参加のための約束事ごとである「積極的に参加する」「相手を尊重する」「人の話の秘密を守る」について、丁寧に伝える。 |
| 15分 | ②割り箸を受け取り、最初は二人で、慣れてきたらグループで環になり、何回廻ることができるか競い合う。   | ②上手に出来ている班の良いところを伝える。  |
| 20分 | ③「良いところカード」を受け取り、グループのメンバー一人ひとりの良いところを発見し、カードに記入する。 | ③良いところは出来る限り具体的に書くよう指示する。また、完成したカードは後日全員の分を教室に貼ることを伝え、意欲を引き出す。   |
| 10分 | ④まとめ  | ④相手を思いやり、良いところを発見することは仲間づくりをする上で重要であることを認識させる。                   |

### 3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・このプログラムはすごく楽しかったです。私は今まで一人でいることが多くて、クラスでもしゃべる相手がいませんでした。でも、この時はみんなで楽しくゲームができたのですごくうれしかったです。
- ・楽しかった。また次もしたい。自分のいいところがあるなんて思わなかったけど、友だちがいっぱい見つけてくれて恥ずかしいけどうれしかった。
- ・友だちのいいところを見つける時、先生が「具体的に書きなさい」といったので良く考えないといけなかった。でも、いいところを考えるのは気分が良かった。
- ・班の人みんなが友だちの良いところを書いてくれて教室の後ろに貼った。後ろを見たら教室がちょっとだけ明るくなった気がした。



### 4) 実践者の声

- 子どもたちが理屈より身体を動かして、協力することの楽しさを体得できたのはたいへん良かった。
- 「わりばしを支えよう」では、上手な班のやり方をマネしたり、班独自でやり方を考えたり、競い合いながら楽しんでいた。声かけも、積極的に励ます言葉をかけた班がうまくできるということに、全体が気づいたようだ。その時、教室が温かい雰囲気になった。
- 「友だちの良いところを発見しよう」は、「絶対に悪いことは書かない」という前提があるため、どの子どもも安心しており、また、自分自身でも気づかなかった良い点を発見でき、その結果、自尊心が高まったようだ。気のあったグループ以外の友だちについて、良いところを発見していくうちに、和やかでうち解けた雰囲気が生まれた。定期的にプログラムを実践し、教室を「柔らかい空気」で満たしていきたい。全員のカードを画用紙に貼り付け、コメントも書かせたが、温かい言葉であふれていた。レイアウトを考えたり、配色を考えて色マジックでコメントを書いていく作業も実に楽しそうであった。
- 日々忙しい学校で特別なプログラムを立案し実行するのは困難であるが、やれば必ず返ってくるものがある。放っておいては集団はまとまらない。できるところから始めて、少しずつ他のクラス、学年全体に広げていけば良い。また、職員間で取組みを交流することも大切である。





## (2) ストレスとうまくつきあう力をはぐくむために

子どもたちは、日々の生活の中で様々なストレスを感じています。いじめとストレスは密接に関係していると考えられ、ストレスとうまくつきあえることは、子どもの心の安定につながります。

ここで実践されたプログラムは、子どもが自分自身のストレスについて理解し、自分に合った対処法を身につけることをめざしています。自分が感じているストレスに気づき、それを適切な力に変えることや、心身の緊張をほぐすことを通して、ストレスとうまくつき合う力をはぐくみます。

### ■ 実践事例 ■

- |     |                                |            |
|-----|--------------------------------|------------|
| 事例6 | 自分が安心できる場所・時間・方法って？（小学校・低学年）   | 阪南市立東鳥取小学校 |
| 事例7 | クラスの中に自分の心の居場所をつくるために（小学校・中学年） | 大東市立四条南小学校 |
| 事例8 | 中学校との段差解消に向けた仕掛け（小学校・高学年）      | 交野市立長宝寺小学校 |
| 事例9 | プレッシャーと上手につきあおう！（中学校・2年生）      | 吹田市立佐井寺中学校 |

# 自分が安心できる場所・時間・方法って？

- 学校名 阪南市立東鳥取小学校
- 実施学年 2年（35名）
- 実施日時 平成19年12月 【道徳】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

学級の中には自分のいやなこと、思うようにならないことがあると、教室から出て行ってしまいう子どもや、「いや」と言ったまま動けなくなってしまう子ども、すねて意欲を失ってしまう子どもなどがある。そのような行動をとってしまう友だちに対して、優しい声かけをしたり、励ます言葉がけをする同級生もいるが、どう接していいのかわからず、見ていただけの子どもや関わろうとしない子どももいる。このワークを活用することにより、自分自身のホッとできる場面や安心できる場所を思い起こすことで、ストレスを軽減する体験をしてほしいと考えた。

また、友だちとの意見交換の中で、知らなかった友だちの内面に触れ、友だちのことを知り、つながりをもつきっかけになればと考えた。

## 2) 展開例

- プログラム名 「ホッとするとき」
- ねらい
  - ・自分がホッとした体験をもとにして、自分の安心する場所や安心するときに気づくことができる。
  - ・自分にあたりラクゼーションを見つけることができる。

| 時間  | 展開                                     | 指導上の留意点・工夫  |
|-----|--|---|
| 15分 | ①ホッとした時・場所を思い浮かべ、カードに文章や絵で記入する。        | ①カードに記入できずにいる子どもはいないかを机間巡視し、記入しにくい子どもには具体的な例を1～2つ示したり、絵でかいてもいいなどの助言をする。 |
| 5分  | ②5～6人のグループを作る。                         | ②肯定的な意見交換がされるよう指導する。  |
| 15分 | ③カードをもとにして、自分のホッとした時・場所についてグループ内で発表する。 | ③机間巡視し、発表や交流の様子を観察し、必要に応じて助言する。   |
| 10分 | ④友だちの意見を聞いてどう思ったかをカードに記入し、発表する。        |   |

### 3) 子どもの反応

○子どもの発表（自分のホッとした時・場所）より

★一人でいるときにホッとできると答えた児童

自分の部屋にいる時、布団の中やこたつの中で寝転んだ時、お風呂に入った時



★家族と一緒にいる時にホッとできると答えた児童

お母さんという時や話している時、ほめられた時、家に帰った時、お姉ちゃんという時

★友だちという時にホッとできると答えた児童

友だちが家に来た時、友だちの顔を見た時、友だちと遊んでいる時、教室の中にいる時

★行動したことでホッとできると答えた児童

宿題が終わった時、テストがうまくいった時、上手にできた時、ゲームで勝った時、友だちとけんかをして仲直りした時、犬と遊んでいる時

○子どもの発表（友だちの意見を聞いてどう思ったか）より

- ・みんなのことを知れてうれしかった。
- ・たくさんホッとすることを聞いてよかった。
- ・それぞれがホッとするところがちがうから、おもしろかった。
- ・友だちがどんなときにホッとするかわかった。
- ・いやなことがあったときホッとしたことを思い出すと元気が出る。

### 4) 実践者の声

○グループ内の発表では、なごやかな雰囲気の中で、「いっしょやなあ。」「そうやなあ。」「それをわすれていたわ。」などのつぶやきが出るなど、共感的・肯定的な見方で交流することができた。

○プログラムでは、グループを作り、ホッとした時や場所について自由に意見を出し合い、記録役を決めて記録する展開になっているが、2年生の児童の実態から十分な意見の交流が難しいと考え、カードに記入してから意見交流をするように工夫した。このことで、全員が自分の思いや経験を話すことができた。

○友だちの意見を聞いた後どのように思ったかを、準備したカードに記入するようにした。友だちの意見との相違点に気づいたり、多くの安心する時や場所があることに気づくことができていた。



# クラスの中に自分の心の居場所をつくるために

- 学校名 大東市立四条南小学校
- 実施学年 5年1組（33名）
- 実施日時 平成20年5月 【道徳】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

5年生は元気がよく活発で、休み時間、運動場で思いっきり遊んでいる姿をよく見る。また、学校でのいろいろな活動に積極的に取り組む姿勢も見られる。子どもたちに「5年生はどんなクラス？」と聞くと、「楽しいクラス」「男女仲がいい」と答える子どもが多い。一方、自分の気持ちを抑えられなかったり、相手の気持ちを考えられない言動が見られることが課題である。

仲間どうしのつながりをつくるために、人によって感じ方が違うことに気づかせ、友だちと気持ちを合わせること、一緒に活動することが心地よいと思う気持ちを育てたいと考え、特別活動の時間に学級で取り組んだ。

## 2) 展開例

- プログラム名 「あいこじゃんけん」「ホッとするとき」
- ねらい
  - ・学級の仲間で楽しい時間を共有し、互いが親しみをもち意欲的に参加できる雰囲気をつくる。
  - ・ホッとした場所や時を話し合うことでお互いの感じ方の違いに気づき、相手を思いやる気持ちを持ち、自分がリラックスする方法を考えさせることをねらいとする。

| 時間  | 展開  | 指導上の留意点・工夫  |
|-----|---|---|
| 5分  | ①「ピリープ」をリコーダーで演奏する。   | ①リラックスできる雰囲気をつくる。   |
| 15分 | ②「あいこじゃんけん」をする。<br>・2～4人組をつくる。→あいこになるまでじゃんけんをする。→感想を交流する。   | ②「次は何を出す」という声かけやしぐさをしないように指示する。感想の交流では、気持ちを合わせることでできたグループを紹介する。 |
| 20分 | ③「ホッとするとき」をする。<br>・「いまどんなきもち」（大阪府人権教育研究協議会）のポスターを使い、ホッとするときの気持ちを考える。<br>・今までにホッとした場所や時について話し合う。（記録係が記録する） | ③人はそれぞれ感じ方が違うことを伝える。グループでの意見交流は肯定的に行えるようにする。                    |





|    |  |  |
|----|--|--|
| 5分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで出した意見を全体で交流する。</li> <li>④まとめ・ふりかえり</li> <li>・他の意見や感想を聞き、自分の体験をふりかえる。</li> <li>・活動したことをふりかえり、感想を書く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>④ワークシートを用意する。</li> <li>・ストレスがたまった時に「ホッとする場面」を思い出すことでストレスが軽減することを伝える。</li> </ul> |
|----|--|--|

### 3) 子どもの反応

○ワークシートより



◇友だちの「ホッとする場所・時」を聞いてどんなことを思いましたか。

- ・「落ち着く時は、川のせせらぎを聞いた時」というのがすてきな～と思った。
- ・私のホッとする場所は「ふとんの中」なので、友だちが同じことを言った時うなづけました。

◇1時間の活動を通してどんなことを思いましたか。

- ・あいこじゃんけんでのたりの人とやる時や4人でする時、相手のことがよくわかった。
- ・あいこじゃんけんでいきがあってよかったです。
- ・意見を言うと、私もうなづけたし、友だちもうなづいてくれていいな～と思いました。
- ・班のみんながいっしょけんめい考えていました。そういうところが好きです。
- ・「おじいちゃんの家で愛犬と遊ぶとホッとする」と聞き、その人のことがわかってよかった。

### 4) 実践者の声

○「今まで自分がホッとする時を考えたことがなかった。今日いろいろ考えることができてよかった。」と最後に発言した子どもがいた。また、「ホッとする場所も時間も無い。」という子どもがいたので、これからその子どもの様子をしっかり見ていこうと思った。

○1学期の最初なので、「友だちといっしょに活動することが楽しい」と感じることを第一に考えた。一人ひとりにとって居心地の良い学級づくりをいつも心がけている。

自分が認められた時、子どもは安心し自信をもって新しいことに取り組む。今回のプログラムを通して、互いのことを知り、認めあうことを感じてくれたらと考えている。



# 中学校との段差解消に向けた仕掛け

- 学校名 交野市立長宝寺小学校
- 実施学年 第6学年（74名）
- 実施日時 平成19年12月 【道徳】
- 実施場所 各教室

## 1) 全体の取組みの概要

本校では、大学と連携しストレス・マネジメントを取り入れ、児童のコミュニケーション能力の育成と人間関係づくりをめざしている。

また、中学校との段差解消のため、校区中学校と連携し、1学期に「中学校入学前までにしてほしいこと」として、主に学習面についての説明をこども支援コーディネーターが小学6年生に対し実践した。

今回、いじめの未然防止をねらいに、こども支援コーディネーターが「いじめ対応プログラムⅡ」を活用し、子どもたちの抱えるストレスや問題行動について考えさせるワークショップを行い、ストレス・マネジメントの取組みと重ねて、小中連携の第二弾の実践とした。

## 2) 展開例

- プログラム名 「ああプレッシャー！」
- ねらい ストレス（イライラ）について考え、その解消法を身につけさせる。

| 時間  | 展開  | 指導上の留意点・工夫  |
|-----|---|---|
| 5分  | ①中学入学を3ヶ月後に控えた6年生に、中学校の様子を話す。             |   |
| 10分 | ②プリントを配付し、「ストレスを感じる時」、「失敗談」、「解消法」について考える。 | ②指導者自身のストレスなどを紹介し、考えるヒントなどを与える。                         |
| 15分 | ③ストレスについて発表し、他の人のストレスやその解消法を知る。           | ③できるだけ多くの人に発表させ、一人ひとりの発表に共感したり、コメントを入れる。                |
| 5分  | ④まとめ                                      | ④ストレスのいろいろな解消法から自分にあったものを探す。ストレスと感じているのは、自分だけではないことを知る。 |
| 10分 | ⑤アンケート記入                                  |   |

### 3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・ストレスにもいろいろな原因があることがわかった。
- ・みんながいろいろ思っていることがわかって良かった。
- ・自分だけがストレスを感じているのではないとわかった。
- ・ストレスの解消法をほかの人から聞いて参考になった。
- ・友だちが悩んでいたら、相談にのりたい。



※ プログラム実施後の子どもへのアンケート結果（74人）

|                            | とてもそう思う | どちらかと言えば<br>そう思う | どちらかと言えば<br>そう思わない | 全くそう思わない |
|----------------------------|---------|------------------|--------------------|----------|
| 本日の授業は楽しかったですか。            | 39人     | 32人              | 3人                 | 0人       |
| 授業の内容は難しかったですか。            | 4人      | 23人              | 27人                | 20人      |
| 授業時間は、充実していたと思いますか。        | 20人     | 32人              | 10人                | 2人       |
| この授業で得たことは、役に立つと思いますか。     | 33人     | 36人              | 2人                 | 3人       |
| また機会があれば、本日のような授業を受けたいですか。 | 39人     | 29人              | 4人                 | 2人       |

### 4) 実践者の声

○ストレスについて、学級全体で話し合うことができ良かったが、深刻な問題、ストレスについては、自分で考え、対処することは難しいように思う。また、保護者に相談したり、自分の好きなことをしてストレスを発散するなど、ストレスの解消法を自覚している子どもが多くいることに驚いた。



# プレッシャーと上手につきあおう！

- 学校名 吹田市立佐井寺中学校
- 実施学年 2年1組（38名）
- 実施日時 平成19年12月 【特別活動】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

本校では、いじめ撲滅に向けた学年単位の取組みを特別活動に位置づけ継続的に行っている。

4月に学年集会をもち「いじめをなくす」呼びかけを行うとともに、5月に「いじめに関するアンケート」を実施し、実態把握に努めた。11月には、「いじめ対応プログラムⅡ」にある「学校生活アンケート」を実施し、その結果をもとに生徒との懇談をもった。また、「いじめ対応プログラムⅡ」の活用を日常化することをねらいとして、12月には、ストレス・マネジメントをねらいとした「プログラムⅡ公開授業」を開催した。

## 2) 展開例

- プログラム名 「ああプレッシャー！」「リラクゼーション」
- ねらい 些細なきっかけによるトラブルが増えており、ストレスとうまくつきあえない生徒が多いことが気にかかる。そこで、グループ討論を中心に和やかな雰囲気の中で、プレッシャーへの対処法を学ばせる。

| 時間  | 展開  | 指導上の留意点・工夫   |
|-----|---|--|
| 5分  | ①4人班（校外学習班）をつくる。<br>②プレッシャーについて説明する。  | ②野球の五輪予選の話などから、プレッシャーとはどんなものか理解させる。  |
| 25分 | ③「ああプレッシャー！」<br>・「最近プレッシャーを感じたのはどんなときか」と発問し、板書する。4人1組になり意見を交流する。<br>④ワークシート（『いじめ対応プログラムⅡ』P.33）を配布し、各自で記入する。<br>⑤感想や気づいたことを交流する。 | ③スクールメイトが例を示し、発言しやすい雰囲気をつくる。また、机間巡視し、各班の様子を見て、意見交流が活発になるように働きかける。<br>④スクールメイトの記述を例に取り、項目ごとに説明を加えながら一緒に記入していく。<br>⑤同じような場面に直面したときに、次からはどんなことができるか考えさせる。 |

|     |  |   |
|-----|--|---|
| 12分 | ④「リラクゼーション」<br>・いすに楽な姿勢で座り目を閉じ深呼吸する。<br>・リラックスする方法を何度かくりかえし、肩の緊張をほぐす。<br>・肩に力を入れた時と、力を抜いた時の体や気持ちの違いを全員で交流する。 | ④学級全体が落ち着いたかどうか、確認する。<br>・リラックスした感じが味わえるように様子を見ながら声かけをする。<br>・体の緊張と心の緊張の関係が深いことに注目する。                     |
| 8分  | ⑤まとめ<br>・ワークシートの裏に今日の授業の感想やわかったことを記入する。  | ⑤人それぞれにいろんな対処法があることに気づかせる。プレッシャーを感じているとき、自分でそのことに気づき、うまく対処することによって乗り越えられる力に変えられることや、みんながその力を持っていることを確認する。 |

### 3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・自分だけじゃなく、誰だってプレッシャーを感じていることがわかり安心した。
- ・私自身がどんなときにプレッシャーを感じるのかふりかえれた。
- ・「プレッシャー」という言葉に悪いイメージしか持っていなかったけど、プレッシャーを感じることは大事なことで、それをやわらげる方法があることがわかりました。
- ・プレッシャーを感じた時は〇〇さん（スクールメイト）のやり方を試そうと思った。



### 4) 実践者の声

- スクールメイトとのうちあわせで子どもの視点に近いアイデアを聞くことができ、大変参考になった。
- 「内容が少ないかな」と思ったが、子どもたちが「ゆっくり人の話が聞けてよかった」と言っていた。思いのほか、意見がたくさん出て、授業の感想もしっかり書いてあり手ごたえを感じた。
- プログラムは、実際に活用できる内容が多い。ただし中学生は、照れくさいとか恥ずかしいという気持ちが強い年頃なので、「前向きにプログラムに取り組もう」という雰囲気づくりが大切だし難しい点でもあると感じた。



### (3) 感情を適切に表現する力をはぐくむために

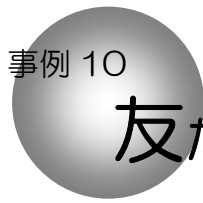
人間は様々な感情をもっています。感情はどれも大切なものですが、感情をコントロールせずにそのまま表現することは、いじめにつながる可能性があります。いじめをなくすためには、子ども自身が自分の感情の特性を知り、相手を尊重した表現方法を学ぶことが大切です。

ここで実践されたプログラムは、感情を表す様々な言葉と適切な表現の仕方を学ぶこと、自分の感情をコントロールする方法を身につけることをめざしています。

暴力的でない表現方法を学ぶことや、自分自身で気分をしずめる方法を知ることを通じて、子どもが自らの感情を適切に表現する力をはぐくみます。

## ■ 実践事例 ■

- |       |                                 |            |
|-------|---------------------------------|------------|
| 事例 10 | 友だちを信じ、自分に自信を持つために (小学校・中学年)    | 八尾市立亀井小学校  |
| 事例 11 | 気分が良くなる言葉と悪くなる言葉 (小学校・中学年)      | 岸和田市立城内小学校 |
| 事例 12 | 心が温まる言葉、心が痛む言葉、何が違うの? (小学校・高学年) | 四條畷市立田原小学校 |
| 事例 13 | ヤバイって、どんな意味だっけ (中学校・1年生)        | 熊取町立熊取中学校  |
| 事例 14 | 2冊の絵本を教材に加える (中学校2・3年生)         | 河南町立中学校    |



# 友だちを信じ、自分に自信をもつために

- 学校名 八尾市立亀井小学校
- 実施学年 第3学年（68名）
- 実施日時 平成19年11月～12月（全3時間） 【特別活動】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

1学期当初から、子どもどうしの発言の中に、人の心を傷つける言葉が発せられていることが気になっていた。このプログラムを行うことで、「うれしくなる言葉」、「元気になる言葉」、また反対に「心を傷つける言葉」があることに気づき、自分の感情を適切な言葉で伝え合う力をつけていきたいと考えた。

併せて、友だちの意見を聞き、人によっていろいろな感じ方があることに気づき、相互に理解し合える仲間づくりを通して、友だちを肯定的にとらえ、自分に自信をもたせていくことをねらいとした。

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 第1回（45分）班活動<br>「仲間の良いところを見つけよう」 | Goodカードに友だちの良いところを考え書く。→いろいろな面から良いところを見つけられるように助言し、支援する。 |
|---------------------------------|--|

## 2) 展開例

- プログラム名 「感情の言葉」
- ねらい 友だちの良さを認め、自分を好きになる気持ちを育てる。自分の感情の表現の仕方と考えると共に、人の心を元気にする言葉、人を傷つける言葉について考え、適切な言葉や感情の表現の仕方を考えさせる。

| 時間   | 展開                         | 指導上の留意点・工夫   |
|------|----------------------------|--|
| 2 限目 |                            |  |
| 30分  | ①友だちの良いところを発表する。           | ①良いところを言われる子どもは前に出て、友だちの発表を聞く。（1人3～4枚のカードを発表する。）<br>④友だちや自分の良さに気づけたことを褒める。 |
| 5分   | ②自分の写真の周りにGoodカードをはってもらおう。 |  |
| 5分   | ③学習の感想を書く。                 |  |
| 5分   | ④感想を発表する。                  |  |

**良いところを見つけようカード**

3人A

5人B



|      |                              |  |
|------|------------------------------|--|
| 3 限目 |                              |  |
| 5分   | ①最近、学級で友だちを励ましていた場面を教員が紹介する。 | ①体育の授業で、友だちを励ましていたことなど、身近なできごとを心がける。                                 |
| 5分   | ②「心が元気になる言葉」を考え、発表する。        | ②③子どもの発表の要旨を板書し、「元気になる言葉」、「元気が出る言葉」を確認する。                            |
| 5分   | ③「心が傷つく言葉」を考え、発表する。          |  |
| 20分  | ④その言葉を言われた時の気持ちを考え、発表する。     | ④友だちの意見を聞き、その一言で心がどんなに傷つくかを考えさせる。また、人の尊厳を傷つける言葉については、命の大切さについてふれて話す。 |
| 10分  | ⑤授業の感想を書く、発表する。              | ⑤誰かが人を傷つける言葉を発していたら、それを止め、許さない友だち関係を築く大切さについて話す。                     |

### 3) 子どもの反応

○子どもの感想より

#### ◇「仲間の良いところを見つけよう」

- ・自分がこんなにいいところがあったなんて知らなかった。いっぱいほめてくれることがあるからうれしいです。
- ・友だちのいいところを見つけ楽しかった。友だちがぼくのいいところを言ってくれてうれしかった。それに、友だちのいいところを言って楽しかったよ。



#### ◇「感情の言葉」

- ・「死ね」と言われたことがあるけど、すごく心が傷ついたよ。だから、そんな言葉を言わなくて、優しいクラスにしたいなと思う。
- ・「大丈夫？」って言ってくれたら、すごくうれしい。わたしも言われた事あったけど、名前でかわれたら傷つくだけやから、絶対言わない。
- ・お父さん、お母さんにテストを見せたら、「すごい」と言われてうれしくなった。命は家族がくれたもの。一番大切なのは命。

### 4) 実践者の声

- 「感情の言葉」では、今まで「心が傷つく言葉」を言われた経験を思い出し、その時の気持ちを積極的に発表することができた。また、「心が元気になる言葉」があることにも気づき、そういう言葉をこれから使っていきたいという感想をもつ子どももいた。

# 気分が良くなる言葉と悪くなる言葉。

- 学校名 岸和田市立城内小学校
- 実施学年 3年1組（37名）
- 実施日時 平成19年12月 【道徳】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

これまでの様々な取組みを通して、友だちがけがをした時に助けてあげたり、運動が苦手な子どもにコツを教えたりするなど「相手のことを思いやり、親切にする」行動が見られるようになってきた。

しかし、休み時間中の些細なことが原因で、言い争いや問題行動に発展してしまうことも少なくない。言い争いや問題行動の多くに見られるのが、「言葉による感情のぶつけあい」である。そこで、2学期の学級集団づくりのまとめとして、道徳の時間を活用し、「感情の言葉」について学習することを計画した。

## 2) 展開例

- プログラム名 「感情の言葉」
- ねらい
  - ・お互いの意見を尊重し考えを認め合う気持ちをもたせる。
  - ・普段使っている言葉をもとに、言葉のループリック（評価尺度）\*を作成させる。

| 時間  | 展開   | 指導上の留意点・工夫  |
|-----|--|---|
| 5分  | ①あいさつの言葉を交流する。   | ①短い単語で使う言葉についての意識を高める。                              |
| 15分 | ②普段、何気なく使っている言葉をとても気分がよくなる言葉、気分がよくなる言葉、気分が悪くなる言葉に分類し、短冊に書かせる。<br>・感謝の言葉 「ありがとう」<br>・援助の言葉 「だいじょうぶ」「手伝おうか」<br>・挨拶の言葉 「おはようございます」「さようなら」<br>・非難・中傷・差別・無視の言葉 「馬鹿」「おまえアホか」 | ②小グループでの話し合いをもとに進めていく。机間巡視し、分類上不適切と思われる言葉については助言する。 |
| 10分 | ③話し合って分類した言葉を使って、「言葉のループリック*」を作成する。  | ③ワークシートを使って、3段階の評価指針になるようなループリックを作っていくようにする。        |

|     |  |  |
|-----|--|--|
| 15分 | ④作成した「言葉のループリック※」をもとに、「積極的に使っていきたい言葉」や「使わないでおこうと思う言葉」について話し合う。 | ④黒板に貼られた短冊の中から、自分が積極的に使っていこうと思う言葉や、使わないでおこうという言葉を選んでいくようにする。今後、一週間、自分で選んだ言葉を使っているかを毎日チェックし、意識を高める。 |
|-----|--|--|

※ ループリックとは、横軸と縦軸に項目と評価規準を載せ、その規準をもとに、子どもたちが自分の姿をふりかえるために使用されるものです。今回の「言葉のループリック」では、横軸に、「あいさつ」「友だちにかける言葉」を、縦軸に「◎気分がとても良くなる言葉」「○気分がよくなる言葉」「▲気分が悪くなる言葉」とした。

### 3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・友だちにいろいろな言葉をかけた。特に「気分がよくなる言葉」をかけた。
- ・友だちが、気分が悪くなる言葉を使わなかったから、今の私は「◎」です。
- ・私はこの授業を受けてよかったです。もっといい言葉をいっぱい使っていきたいです。
- ・最初は、悪い言葉を使っていたけど、気をつけるようになりました。この勉強は、悪い言葉を消せる勉強だと思います。
- ・気分がよくなる言葉を使うと、相手も気分がよくなるし、自分も気分がよくなるんだなあと思いました。



### 4) 実践者の声

○普段何気なく使っている言葉を「とても気分がよくなる言葉」と「気分がよくなる言葉」、「気分が悪くなる言葉」に分類する中で、「気分が悪くなる言葉」については簡単に出るが、「とても気分がよくなる言葉」と、「気分がよくなる言葉」については、分類するのにとまどっている様子があった。

○学級が、「気分がよくなる言葉」で埋め尽くされれば、いじめを認める雰囲気は消し去ることができると思う。それは、お互いを認め合い、尊重していることに他ならない。学級は友だちも、そして、自分も気分がよくなる集団であることが大切である。今回の学級での授業だけで終わらず、言葉を意識する活動を継続したり、学年・学校全体で取り組んでいったり、家庭との連携を深めていったりすることで、さらに意識は強まっていくであろう。





# 心が温まる言葉、心が痛む言葉、何が違うの？

- 学校名 四條畷市立田原小学校
- 実施学年 6年1組（34名）
- 実施日時 平成19年11月 【道徳・国語】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

校内での子どもどうしの言葉の暴力によるトラブルが生じたことを受け、自分たちが日頃、友だちとどのような言葉を交わしているかを見直すため、全校集会で校長より「友だちへの言葉のかけ方を考えよう。」という内容の講話を行った。

その後、道徳と国語の授業を活用し、子どもたちが日頃交わしている言葉を「心が温まる」「心が痛む」という二つの観点からふりかえり、言葉は、使い方を間違えると、刃のように相手を傷つけるものになってしまうことに気づかせ、より良い人間関係を結ぶために言葉の使い方を大切にすることを指導することとした。

## 2) 展開例

- プログラム名 「感情の言葉」
- ねらい 感情の性質や、適切な表現の仕方を理解する中で、相手の立場や気持ちになって話す大切さを知り、よりよい人間関係の構築へとつなげる。

| 時間   | 展開  | 指導上の留意点・工夫                             |
|------|---|--|
| 1 限目 |   |  |
| 15分  | ①全校集会での校長先生の話振り返り、学級での実態について話し合う。                                 | ①友だちとの関わりの中で、どんな言葉を使っているかに気づかせる。       |
| 10分  | ②言葉には、「心が温まる言葉」と「心が痛む言葉」があることを知る。                                 | ②次の作業（言葉を書き出す）につながるよういくつか具体例を挙げる。      |
| 15分  | ③友だちに言われたり、自分が友だちに言った言葉で「心が温まる言葉」と「心が痛む言葉」を白紙に書き出し、「言葉の一覧表」を作成する。 | ③自分の生活をふりかえらせるため、互いの交流はしないで、思い出して書かせる。 |
| 5分   | ④まとめ  |  |

|     |   |   |
|-----|---|---|
| 2限目 |   |   |
| 5分  | ①前時をふりかえる。  | ①「心が温まる言葉」と「心が痛む言葉」を思い出す。                     |
| 10分 | ②「言葉の一覧表」を見て、気づいたこと、感じたことを交流する。                                   | ②自分の経験を思い出し、それと重ね合せたり、また、比較して考える。             |
| 10分 | ③「心が温まる言葉」(例:「ファイト!」「気にしなくていいよ」)と「心が痛む言葉」(例:「へたやな」「最悪!」)の違いを話し合う。 | ③その言葉を聞いた時どう感じるか、相手の気持ちを考えているのはどちらの言葉かに気づかせる。 |
| 10分 | ④言葉の使い方を見直し、これからの生活に役立てよう考える。                                     | ④⑤学級で「心が温まる言葉」が増やせるように意識させる。                  |
| 10分 | ⑤「心が温まる言葉」ベスト1をカードに書き、教室の背面に掲示する。(まとめ)                            |   |

### 3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・あまり考えずについ「心が痛む言葉」を言っていた。
- ・友だちに「心が温まる言葉」をかけてもらってばかりで、自分はあまり人に言っていなかったから、これからは言いたい。
- ・自分が友だちに「がんばったね。」と言ってあげたらすごく喜んでくれて、その時、自分もうれしかった。



### 4) 実践者の声

○最後にハート形のカードに、自分にとって一番「心が温まる言葉」を書き、教室の後ろに掲示した。「もっと書きたいからちょうだい」とカードを取りに来て、別の言葉を書いて貼る子どもがいた。また、掲示したものをほとんどの子どもがあらためてじっくりながめていた。

○集会で、校長先生から、具体的な事例をあげて「相手の気持ちになって話そう。」というお話があり、それを導入として扱ったので、子どもにとって、考えるきっかけを自然につくることができた。

○日頃から国語で「感想を表す言葉(感想語彙)」を学習しているので、今回は、「友だちとの交流で使う言葉」を重点にした。子どもが書き出した「心が温まる言葉」と「心が痛む言葉」を一覧表にし、比べて考えさせることができた。

○また、一覧表は学級通信に載せ、掲示物は参観時に掲示することで、保護者にも理解していただき、一緒に考えたり、家庭でも留意いただくようお願いした。





# ヤバって、どんな意味だっけ

- 学校名 熊取町立熊取中学校
- 実施学年 1年3組（40名）
- 実施日時 平成20年2月 【道德】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

全体的に明るく活気があり、男女の仲も良く、班活動等みんなで協力して取り組むことができている。しかし、最近、周りのことを考えず、平気で相手を傷つけるような言葉が飛び交う場面がしばしば見受けられるようになった。

言葉の意味や重みを理解し、適切な言葉や表現方法を身につけるとともに、思いやりの心を育てるきっかけとして、このプログラムを活用することにした。

## 2) 展開例

- プログラム名 「感情の言葉」
- ねらい
  - ・ 日常的に用いている言葉が様々な感情を意味していることに気づく。
  - ・ 感情を表現する言葉が多くあることを理解する。
  - ・ 感情の性質の理解と適切な表現の仕方を身につける。


| 時間  | 展開  | 指導上の留意点・工夫  |
|-----|---|---|
| 5分  | ①ワークシート（資料1）設問1の理由を尋ねる。   | ①「ヤバい」という言葉が問題というよりも、相手の受け取りへの配慮が必要であることを理解させ、状況によって使い分ける必要性に気づかせる。   |
| 35分 | ②ワークシート設問2を個人で記入する。<br>③「感情」とは何かを数人に尋ねる。<br>④自分が出した言葉を付箋に書き、班で模造紙に貼る。班での総数を数える。<br>⑤班で、模造紙の付箋を「うれしい言葉」「いやな言葉」に分ける。それ以外に浮かんだ言葉 | ②言葉が同じでも、一人ひとりの感じ方や表現の違いに気づかせる。<br>③感情とは「ヒト・動物・ものごと等感じて抱く気持ち」であることを理解させる。<br>例）六情（喜怒哀楽愛憎）<br>④数の多さを競うのではないことを確認する。<br>⑤感情の言葉を増やし自分の感情を理解していくことが大切であることを理解させる。 |

|     |   |  |
|-----|---|--|
| 10分 | <p>も加える。</p> <p>⑥班ごとに分けた理由を発表する。</p> <p>⑦「感情の言葉」リスト（資料2）を配る。</p> <p>⑧個人で感想や気づいたことを書く。時間があれば何人かの感想を読む。</p> | <p>⑥感情に良い・悪いはなく、どれも大切であることを理解させる。</p> <p>⑦感情を適切に表現すれば、気持ちが落ち着くことを理解させる。</p> <p>⑧状況に合わせて感情を表現することの大切さを確認する。</p> |
|-----|---|--|

### 3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・今日の授業で普段使っている言葉を見なおせた。また、普段使っている言葉で相手に嫌な思いをさせてしまっている言葉があることがわかった。
- ・「ヤバい」はうれしいときにも使うし、しんどいときにも使うし、嫌なときにも使う。けれど、今日の授業を通して、他の人が聞いたらどういう風を感じるかわからない。自分はもう少し言葉を考えてものを言おうかなと思った。
- ・「うれしい、悲しい」という言葉は意味がすぐに伝わるが、「キモい」などの言葉はどういう風に意味を取ったらいいのか分からない。これから適切に言えるように、たくさんの言葉、言葉の意味を学びたいです。
- ・人にはいろいろな感情があること、またその感情は人それぞれ感じ方が違うことが分かった。
- ・私はいつもほとんど同じ言葉で気持ちを表現していたと思う。「ヤバい」が口癖になっている。でも、いつも使っている言葉だけじゃ本当の自分の気持ちを伝えられないことが分かった。この授業を終えて、また新しい言葉を見つきたい。



### 4) 実践者の声

- 子どもが日常使用している感情を表す言葉は非常に少なく、反面、一つの言葉のもつ意味は広がっている。たとえば、「ヤバい」という言葉は、一般的には「あぶない、危険」という状況が予想される時に用いるが、「すごい」という意味や、「かっこう悪い」「気持ち悪い」というようなマイナスの意味合いにも用いられる。つまり、喜怒哀楽等の感情を「ヤバい」の一言でかたづけられていることが多い。結果、その言葉を周りで聴いていた人や、直接言われた相手の受け取り方も多様であるため、誤解を招くことが、子どもどうしの日常の場面でも見受けられる。
- お互いを理解し高めあうためにも、普段から自分の感情を的確な言葉として表現できることが必要である。こうしたプログラムを活用し、言葉の一つ一つの微妙なニュアンスの違いをしつかりと理解し、感情豊かな表現をして適切なコミュニケーションができる力を育成したい。

**資料 1****「感情の言葉」ワークシート**

( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

1 次のような状況で、どうしてお母さんは怒ってしまったのでしょうか？

あなたは、友だちの家でご飯をよばれることになりました。友だちのお母さんと会うのは初めてではありませんが、少し緊張した雰囲気です。

まずは一口、と同時に「これ、ヤバい！」ととっさに言葉がでました。

お母さんの様子は喜んだ顔ではありません。というより、むしろ怒っているような感じがします。自分では決して怒らせるようなことは言ったつもりは全くないのに…。

理由

2 次のような場合、どんな気持ちになりますか？ 一言で思いを表現してください。

- ①おいしいご飯を食べた。 ( )
- ②友だちに悪口を言われた。 ( )
- ③友だちに挨拶をしたが無視された。 ( )
- ④今から友だちと遊びに行く。 ( )
- ⑤風邪を引いた時に友だちがお見舞いに来てくれた。( )
- ⑥信用していた友だちに裏切られた。 ( )

3 今日の授業をとおして学んだことや感想を書いてください。



## ♪ 感情を表す言葉をふやそう!! (感情リスト) ♪

次のリストには、うれしい感情を表す言葉やいやな感情を表す言葉をあげています。あなた自身が持っている感情を表す言葉をつけ加えましょう。

## ○ 自分がうれしい言葉

|         |        |          |       |
|---------|--------|----------|-------|
| 受け入れられる | 達成感    | 愛情に満ちている | あいまいな |
| 落ち着いた   | 快適な    | 思いやりがある  | 自信    |
| 満足      | 楽しい    | 喜んで      | 夢のような |
| 熱心な     | 有頂天な   | 大得意の     | うきうき  |
| いきいき    | 不思議な   | 空想的な     | リラックス |
| うっとり    | くすくす笑う | よい       | うれしい  |
| ほっとする   | 興奮している | とてもうれしい  | 最愛の   |
| 自慢げな    | 温和な    | どぎまぎ     | うまくいく |
| 喜ぶ      | 誇らしい   | くつろいだ    | 幸せな   |
| 懐かしい    | 滑稽な    | 歓迎       | 安心    |
| ばかげた    | 驚く     | 思慮深い     | わくわく  |

## ○ 自分がいやな言葉

|        |         |       |        |
|--------|---------|-------|--------|
| 心配     | 怒り      | いらいら  | 不安     |
| うんざり   | くやしい    | むかつく  | 混乱     |
| 反抗的    | 落胆      | 気落ち   | がっかり   |
| まごつく   | 決まりが悪い  | ひどく怒る | 憤慨     |
| わびしい   | 欲求不満    | 激怒    | びっくり   |
| 寂しい    | 気難しい    | やましい  | 憎い     |
| ぞっとする  | 敵意のある   | 傷つく   | 腹が立つ   |
| 困る     | ねたましい   | 退屈    | ひとりぼっち |
| 神経質な   | 圧倒      | 迷惑    | 落ち着かない |
| 後悔     | はねつけられる | おびえる  | 悲しい    |
| おどおど   | 恥ずかしい   | ゆううつな | 心地良くない |
| 満足いかない | モヤモヤ    | 怖い    | 当惑     |
| 疲れた    |         |       |        |

## 2冊の絵本を教材に加える

- 学校名 河南町立中学校
- 実施学年 第2学年（168名）、第3学年（151名） 計319名
- 実施日時 平成19年11月～12月 【道徳】
- 実施場所 各教室

### 1) 全体の取組みの概要

本校の生徒は、基本的に落ち着いた環境の中で学校生活を送っている。しかし、個々の生徒の様子を見てみると、日常会話で相手を不愉快にするような感情を表す言葉を使っている状況がある。そして、その言葉がきっかけとなり、生徒間でトラブルが発生する場面が見受けられる。このような状況を教職員が共通理解し、改善すべき点の一つと認識していた。

校内で検討した結果、今回、プログラムに示されている6つの力のうち、本校の生徒に不足している力は「感情を適切に表現する力」であると判断し、「感情の言葉」「感情の強弱」「気持ちをしずめる方法」のプログラムを3時間の取組みとして実施することにした。

また、そのプログラムの内容に共感するような絵本を選び、教材として付け加えた。

### 2) 展開例

- プログラム名 「感情の言葉」「感情の強弱」「気持ちをしずめる方法」
- ねらい 感情を表現する言葉が多くあることに気づかせ、その性質の理解と適切な表現の仕方を身につける。また、否定的な感情と肯定的な感情があることを知り、人により感じ方が違うことを理解させ、互いに認め合う力をつける。さらに感情のコントロールには感情への対処法を知ることが大切なことから、気持ちをしずめるための自分に合った対処法を見つける。

| 時間 | 展開  | 指導上の留意点・工夫  |
|----|---|---|
| 1限 | ①「感情の言葉」<br>・白紙を一人に1枚ずつ配る。各自で感情の言葉をできるだけ多く書かす。<br>・班でまとめさせる。発表させて黒板に書き出す。<br>②「うれしい言葉」「いやな言葉」「どちらともいえない言葉」に分ける。<br>・感想や気づいたことを学級全体で交流させる。<br>③『ともだちって いいな』*1 を読ませる。 | ①はじめは出された言葉を交流させずに一人ひとりが作業をする。数が出にくい場合はいくつか教員が例を示す。 |

|    |   |   |
|----|---|---|
| 2限 | ①「感情の強弱」<br>・前時に出た言葉を中心に、15個の言葉を抽出する。<br>・15個の言葉を各自でワークシートに記入する。<br>②班で比べる。<br>③学級全体で意見を交流する。<br>④『はせがわくんきらいや』※2 を読ませる。   | ①意識的に「うざい」「だるい」「むかつく」「きしょい」等も追加する。<br><br>④話し合いの中でそれぞれの感じ方に違いがあることを認識させる。 |
| 3限 | ①「気持ちをしずめる方法」<br>・白紙を各自に1枚ずつ配り「気持ちをしずめる方法」にはどのようなものがあるかを書かせる。<br>②班でまとめさせる。発表させて黒板に書き出す。<br>③「いつでもできる方法」「日課としてできる方法」「たまにしかできない方法」に分ける。<br>④「何らかの形で人に迷惑がかかる方法」をあげさせる。<br>⑤「今すぐにできる方法」を考える。 | ①なるべく多く具体例を出させる。<br><br>③自分にあったものを見つけさせる。                                 |

※1 『ともだちって いいな』

『21世紀型授業づくり44絵本を使った道徳授業』大江浩光 著・押谷由夫 監修 明治図書発行に収録

※2 『はせがわくんきらいや』：長谷川集平 著 ブッキング発行

### 3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・「気持ちをしずめる方法」が意外と難しかった。
- ・「うれしい言葉」「いやな言葉」を発表したとき、日常的に「いやな言葉」を多く使っていたことに驚いた。
- ・色々な言葉があると思った。人を元気にする言葉、人を傷つけるような言葉があったが、人を元気にさせられる言葉より傷つけるような言葉のほうが多いことに考えさせられた。



### 4) 実践者の声

○子どもたちは、活発にそれぞれの言葉について話し合いながら、意見を出し合っていた。絵本は子どもたちに余韻を残し、次の授業につなげる意味で効果的であった。『ともだちって いいな』は紙芝居形式で見せたが、ページをめくるごとに感想を出していた。

○子どもたちが自ら考えて活動するプログラムなので、子どももスムーズに取り組んでいた。今後、「いじめ防止」につなげていくためには、日頃からの子どもの実態・発達段階に応じた指導が大切であると痛感した。



## (4) 違いを認めてともに考える力をはぐくむために

子どもたちが、友だちとの感じ方や受けとめ方の違いに気づき、相手を尊重することを学ぶことは大切です。

人と人との間には、これ以上近づいてほしくないという距離があり、それを越えられると不快な気持ちになります。これを「境界線」といいます。心身両面に境界線があり、その感じ方には個人差があることを理解することが、「相手を嫌がるようなことをしない」「いじめ行為をやめてと言える」など、いじめの加害・被害を防ぐことにつながります。また、子どもたちがいじめを構成する力関係に気づき、互いの力を合わせて問題解決を図ることが、いじめ行為の抑止に有効です。

ここで実践されたプログラムは、子どもどうしが「境界線」の存在に気づき、相手の価値観や感じ方を尊重しながら、適切な力の使い方を学びます。

### ■ 実践事例 ■

- |       |                                  |            |
|-------|----------------------------------|------------|
| 事例 15 | ～したらあかん、ではなく、～しようの声かけを (小学校・中学年) | 高石市立高陽小学校  |
| 事例 16 | 自分で「〇〇宣言」をしよう！ (小学校・高学年)         | 羽曳野市立古市小学校 |
| 事例 17 | 遊び、それともいじめ？ 誰が決めるの？ (小学校・高学年)    | 八尾市立北高安小学校 |
| 事例 18 | 心の境界線、同じ場面でも感じ方はそれぞれ (中学校・1年生)   | 大東市立四条中学校  |
| 事例 19 | 私の「いじめNO宣言」につなぐ (中学校・3年生)        | 大東市立住道中学校  |

# したらあかん、ではなく、～しようの声かけを

- 学校名 高石市立高陽小学校
- 実施学年 4年3組（29名）
- 実施日時 平成19年11月 【道徳】
- 実施場所 プレイルーム

## 1) 全体の取組みの概要

学級の子どもには、自分の思いや感じ方を優先し、友だちの考えを受け入れられない場面がみられる。また、授業では、友だちに教えてあげるといったやさしい行為も多いが、相手の気持ちに配慮をせずに単に答えだけを教えていることも多い。そこで、同じものを見ても、一人ひとり感じ方や見方が違うことを共通理解し、自分と違うことを認めることができるような力をはぐくみたい。

今回の学習では、道徳の時間を活用し、自分が困ったり、できなかったという体験をすることで、友だちにどのような支援をすればよいかを、一人ひとりが考えるきっかけにしたいと考えた。

## 2) 展開例

- プログラム名 「いろんな見方」
- ねらい 子ども自身のセルフエスティームを高める。友だちの考えを認め、理解しようとする心を育てる。

| 時間  | 展開   | 指導上の留意点・工夫  |
|-----|--|---|
| 8分  | ①誕生日チェーン（言葉を使わず4月から3月まで、誕生日順に並んでみよう。）  | ①言葉にたよらなくても、伝えたい思いやわかろうとする思いがあれば伝わることを理解させる。                    |
| 10分 | ②「ココロ」のカタカナの文字を白抜きにし、反転させて何が書いてあるかを考える。→（トトI■I）<br>③やり方がわかったら、同様に「ヨロコビ」の文字を読む。 | ②気持ちのシェアリングをさせる。<br>③わからない友だちには、やり方を教えて、できたときには共に喜び合う楽しさを感じさせる。 |
| 10分 | ④何に見えるかクイズ（いろんな見方）   | ④同じものを見ても見え方が違うという学習を通し、見方は一つでなく違う見方もあることを学ばせる。                 |

|    |   |   |
|----|---|---|
| 9分 | ⑤迷路（1本の線で描かれている車の線）をなぞらせる。<br>・小さい迷路→15秒で（急がせて）する。<br>・大きい迷路→1分で（ゆとりのある声かけで）する。 | ⑤気持ちのシェアリング<br>「～したらあかん」ではなく、「～しよう」の声かけの方が頑張る気持ちになることを学ばせる。<br>・指導者の声かけの違いでどのように変わるかを実感させる。 |
| 8分 | ⑥まとめ  | ⑥仲間として、互いに違うことを認め、一緒に生きていくことの大切さについて考えさせる。  |

### 3) 子どもの反応

#### ○気持ちのシェアリングより

- ・ 答えを教えてもらうより、やり方を知りたい。
- ・ 後に残ると焦る。
- ・ しっかり見なさいと言われて、しっかり見てもわからない。



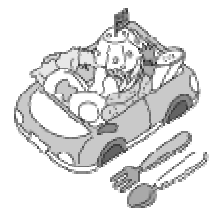
#### ○子どもの感想より

- ・ この授業で人は、みんな考えがあるとか、言葉のやさしさがあるってわかってよかったです。私は、人の気持ちも考えずに何かを言ってしまいます。でも、この勉強のおかげで人の気持ちを考えてみようかなあ…と思いました。
- ・ 誕生日チェーンでは、しゃべらないという課題があっけどきしただけど思ったより楽しくて、やっているうちに友だちとコミュニケーションがよくなっておもしろかったです。
- ・ 「何に見える」では、最初、鳥とおもったけど、Aくんが「うさぎ」と言ったら「あっ、本当

### 4) 実践者の声

○けんかなどでもめたときに、「相手の気持ちになって考えよう」という指導はもちろんだが、普段の授業の中で、このようなプログラムを活用して、相手の気持ちを考えるということを意識的に体験させていく必要があると思う。やさしく、うれしく感じる言葉がけを多く受けた子どもほど周りの人にそのような態度で接したり、言葉をかけられるようになると思う。

○「自分のことが好きだ。」といえる子どもを育てたいというのが、教員としての願いである。良いところも悪いところも含めて自分の存在を認められている子どもは、友だちのことを考える余裕も生まれる。今後も、子ども一人ひとりが、自分のことをしっかりと見つめなおし、自分が大切であると感じるための取組みを考えていきたい。



# 自分で「〇〇宣言」をしよう！

- 学校名 羽曳野市立古市小学校
- 実施学年 5年1組（35名）
- 実施日時 平成19年10月 【道徳】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

2学期になり、仲の良い友だちどうしのふざけあいやケンカなどが目立ってきた。そこには「友だちやから」といった安心感もある。「いじめはダメ」ということは、みんな分かっているが、友だちどうしのふざけあいなどの中で、冗談との区別ができず、いじめに発展する傾向もある。

道徳の時間を活用し、「友だち」とは何か、友だちとの関わりとはどんなものかを考える。ほんの些細な誤解から関係が悪化することのないよう、日常の友だちとの関わり方を考える。

## 2) 展開例

- プログラム名 「心の境界線」を活用し「友だちの境界線」を作成
- ねらい 友だちか、友だちじゃないかの境界線を考え、境界線マップを作成する。マップを完成させた後、友だちとの関わりの中で生まれてくる誤解について考える。今までの生活をふりかえり、これからどうしていきたいか考え、「〇〇宣言」を自ら課題とさせる。

| 時間 | 展開  | 指導上の留意点・工夫   |
|----|---|--|
| 1限 | ①「友だち」とは何かを考え、班で発表し、画用紙にまとめる。<br>②35項目について書かれた「友だちって何？」*の行為が「友だち」といえるのかを考える。<br>③友だちの境界線マップを作る。 | ①どの意見も間違いではないことを助言する。<br>②35項目の質問を読み上げ、一斉に答えられるようにする。<br>・似た経験がないか、思い返しながら答えるよう助言する。<br>・自由な発言の中で、学級全体で考えられるように配慮する。<br>③「友だち」か「友だちじゃない」かについて、境界が難しい行為があることに気づかせる。 |
| 2限 | ①友だちとの関わり方について考える。<br><br>②ふりかえり<br>「〇〇宣言」カードを記入する。   | ①「友だち」か「友だちじゃない」かで許される行為があるのかを考えさせる。子どもの実態に応じた発問をし、話し合いが進むにつれ、落ち着いた雰囲気で行頃の学校生活を見つめることができるよう配慮する。<br>②気づいた自分の課題の1つを目標とするよう助言する。                                     |



### 3) 子どもの反応

○子どもの感想より

- ・友だちっていろんな意味があることを知った。「友だちの意味がある」ことが分かっていても何も考えずに行動していることをこの授業で思った。
- ・絶対に言葉の暴力、態度の暴力、体の暴力は絶対、絶対にしない。
- ・仲が悪くなってしまった子に勇気を出して謝りたいし、また一緒に遊んでいつもの2人にもどりたいなと思っています。
- ・ふだん友だちと遊んでいて、友だちがどんなことがいやなのかなんてあまり考えたことがないから、これからはもっと考えてみようと思った。
- ・今まであんまりいいことじゃないことをしていた。これからは、相手の気持ちを考えて、「していいことなのか、してはいけないのではないか」と考えるようにしていこうと思いました。



#### 資料

※「友だちって何？」の35項目

名前（ ）

どこまでが友だちなんだろう？ 友だちなら：○ どちらともいえない：△ 友だちじゃない：×

|             |           |            |                   |
|-------------|-----------|------------|-------------------|
| 仲良く話す       | みんなでむしをする | なんでもあげる    | ひどくぶつ             |
| 一緒に外で遊ぶ     | 仲間はずれにする  | なんでももらう    | ひどくける             |
| 教室の中で遊ぶ     | 相談ができる    | むりやりもらう    | ひどくたたく            |
| 一緒にゲームする    | 相談にのってあげる | 悪口を書く      | お金のかしかりをする        |
| 冷たい態度をとる    | ケンカをする    | かりたものを返さない | ものをかくす            |
| むしをする       | すなおにあやまれる | 守ってくれる     | はずかしいことをさせる       |
| 遊ぶふりをしてぶつかる | あやまれない    | 助けてくれる     | はずかしいことをさせられる     |
| 遊ぶふりをしてたたく  | 悪口を言う     | やきもちをやく    | いけないことを「いけない」と言える |
| 遊ぶふりをしてける   | 物をかくす     | 相手の心配をする   |                   |

### 4) 実践者の声

○トラブルのほとんどが、誤解や友だちどうしという安心感が原因であったが、この授業で、関係が悪化していた子どももお互い謝罪し仲直りすることができた。すぐに手を出してしまう子どもも、「手を出すのはやめる。」とふりかえていた。

○心の境界線やいじめの定義など、プログラムを参考にして子どもたちの実態に応じて授業を組み立ててみた。身に覚えのある話ばかり（そのように組み立てたから）に子どもたちは、話を真剣に聞き考えていた。

○高学年の思春期真っ盛りの時期に、友だちについて考えたことは、今後の人間関係に少なからず影響がある。暴力行為が決して許されるべきではないこと、また「言葉がけ」の方法、接する態度などが、コミュニケーションをとる上で重要であると学んでくれたのではないかと思う。



# 遊び、それとも、いじめ？ 誰が決めるの？

- 学校名 八尾市立北高安小学校
- 実施学年 6年1組（40名）
- 実施日時 平成19年11月 【道徳（日曜参観）】
- 実施場所 教室

## 1) 全体の取組みの概要

1学年1学級であるため、子どもたちの関係が家族のように身近で温かい反面、互いに遠慮がなく、けじめのつかない関係もみられる。当学級では、「遊び」と「いじめ」の境目が子どもたちの中でついていなかったり、ものの見方が自分からの一方的なものになりがち子どももいる。このため、道徳の時間を活用し、今回の実践に取り組んだ。

## 2) 展開例

- プログラム名 「心の境界線」
- ねらい 1学年1学級で過ごしてきた子どもたちに、慣れ親しんだ友だち関係の中にも、心の境界線があるということを理解させ、よりよい人間関係を築こうという意識をもたせる。


| 時間  | 展開   | 指導上の留意点・工夫                                      |
|-----|--|---|
| 3分  | ①人には、相手との物理的な距離に「これ以上近寄ってほしくない」という境界線があることを知らせる。   | ①実際に先生と児童、児童と児童でやってみせ、その境界線は相手によっても変わることが理解させる。 |
| 2分  | ②同じように心にも「心の境界線」というものがあることを知らせる。   |   |
| 12分 | ③「あなたなら、どう思う？」というシートに、5つある設問に対する「イヤイヤ度」を各自でチェックする。<br>1問ずつ、各イヤイヤ度の人数を確認する。<br>A：友だちが自分の消しゴムを勝手に使った。<br>B：班の人に言われて、班長になった。<br>C：友だちと遊ぶ約束をされていて、遊びに行くと、違う友だちも来ていた。 | ③イヤイヤ度は、0（イヤじゃない）～5（絶対イヤ！）までの6段階とする。            |

|    |   |  |
|----|---|--|
| 8分 | <p>D：夏休みの最後の日に、全然宿題をしていない友だちから、「見せて」と言われた。</p> <p>E：友だちと遊ぶ時、やりたい遊びとは違う遊びに決まった。</p> <p>④結果から、思ったことを書く。</p> <p>⑤発表する。</p> <p>⑥まとめ</p> | <p>⑤同じような意見でも、自分の言葉で発表するよう促す。</p> <p>⑥同じことに対して、人によって「イヤ」と思う度合いはちがうこと、自分の行動でだれかに「イヤだ」という思いをさせないように気をつけることを学ばせる。</p> |
|----|---|--|

### 3) 子どもの反応

○子どもの発表より

- ・「心の境界線」というのがあるとは、知らなかった。
- ・自分がよくても、相手がいやなときもあるんだなあ、と思った。相手がイヤじゃないと勝手に決めつけてはいけないと思った。
- ・みんな、イヤだと思う度合いがちがうことが分かった。みんながイヤじゃないか、考えていきたい。



### 4) 実践者の声

○イヤイヤ度の結果としては、A～Eのどの設問においても、「0：イヤじゃない」から「5：絶対イヤ！」の間の6段階で、0と1をほとんどの子どもが選んでいた。

○日曜参観での授業だったので、後日、保護者からも感想をいただいた。子どもたちの「いや」と感じるレベルに保護者として違和感をもたれた部分が多かった。特に設問 A、D について、子どもたちと大人の意識にずれ※があることがわかった。子どもたちの中に、知識として「心の境界線」という概念は理解できたと思うが、実際の生活に生かしていくには、まだまだ具体的な場面での取り組みであると思う。

※ 設問Aでは、児童は「別に使ってもええやん。」、保護者は「人のものを勝手に使ったらあかんやろ。」、設問Dでは、児童は「宿題を見せてもいいやん。」、保護者は「その子のためにならないから宿題を見せたらあかん。」というずれがあった。



## 心の境界線、同じ場面でも感じ方はそれぞれ

- 学校名 大東市立四条中学校
- 実施学年 1年4組（32名）
- 実施日時 平成19年11月 【道徳】
- 実施場所 第一音楽室

### 1) 全体の取組みの概要

入学から日々の生活、行事を通してお互いを知るようにつとめてきた。全体的に活発で、どんな場面でも発言できる積極性がある反面、自分が発した言葉を相手がどう感じるかについて配慮の足りない子どももまだまだ多い。また、使う言葉や表現の仕方によって内容の受け取り方が違ってしまい、トラブルに発展する場面もあった。

仲間との関わりの中で、相手の反応から、自分が発する言葉の重みを感じ、今後さらに相手の考えを尊重できる関係づくりをめざし、自分の身のまわりにはさまざまな考え方があることを共通理解し、“輪”から“和”へとつながり、お互いに認め合う大切さを、本時の取組みを通して伝えていきたい。

### 2) 展開例

- プログラム名 「心の境界線」
- ねらい 人によって「嫌だ」と感じる事柄や度合いが違うことに気づかせ、自分では意識せず人の嫌がることをしていることがあることを、一人ひとりの生徒に理解させる。また、みんなが心地よく学校生活を送るためには、同じ状況であっても、人によって感じ方が違うことを知る必要があることに気づかせる。

| 時間  | 展開   | 指導上の留意点・工夫   |
|-----|--|--|
| 5分  | ①リラックスできる音楽を流し、心をほぐす。  |  |
| 15分 | ②全員で輪になり、さまざまな色の口・○・△・◇などの形の画用紙を背中に貼り、お互いの形を見ながら会話をせずに「仲間とを感じる形」で集まる。      | ③仲間が見つからない不安、見つかった時の安心を経験し、相手に不安を感じさせることはないかふりかえる。         |
| 25分 | ③「仲間」が見つかるまでの気持ち、「仲間」が見つからなかった時の気持ちなどを交流する。<br>④「身体の境界線」で相手との距離感の違いを発表させる。 | ④学級の中で日常的に「境界線」を侵害しがちな生徒や侵害されがちな生徒に対し、指導者・スクールメイトが助言し配慮する。 |

|    |   |                           |
|----|---|---------------------------|
| 5分 | <p>⑤「心の境界線」について考える。黒板に「こんな時はどう思う？」という場面を掲示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>場面1：グループで遊びに行くのに、知らない間に行く場所が決まっていた。<br/>                 場面2：家に遊びに来たAさんが、部屋を散らかし、マンガを勝手に持って帰った。<br/>                 場面3：夏休み最終日、全然宿題をしていないBさんに急に「宿題を見せて」と頼まれた。</p> </div> <p>⑥班に1枚のホワイトボード、一人に1枚「イヤイヤシー ル(ノ_ノ)」を配り、自分が嫌だと思うレベルにシールを貼り、感じたことを交流する。</p> <p>⑦まとめ・ふりかえり 自分の気持ちをふりかえり、個人でワークシートにまとめる。</p> | ⑥お互いに素直な気持ちで交流がもてるよう心がける。 |
|----|---|---------------------------|

### 3) 子どもの反応


○ワークシートより

◇友だちの意見を聞いて、自分と違う考えを知った時、どんなことを感じましたか？

- ・その人の性格がさらにわかった気がする。
- ・自分とは同じ考え方でも伝わり方などが違った。
- ・自分だったらありえない答えがあったから「なんでやろ？」と思った。

◇自分の考えと違う人に出会ったとき、これからどのように接していこうと思いますか？

- ・違っていいと思うから自分の意見も言っていきたい。
- ・人それぞれいろんなことを思うから受け止めるけど、間違っていたら言ってあげる。
- ・その人のことをまず知って、自分の事も相手に伝わるようにしたい。



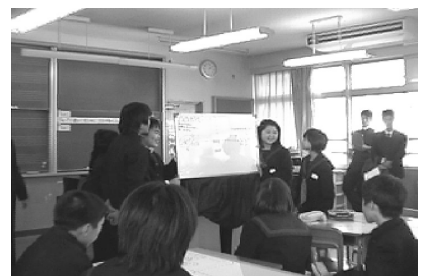
### 4) 実践者の声

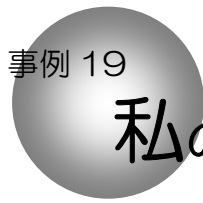
○1つめのプログラムの活動が始まりしばらくすると、子どもから「色とか形とか違ってみんな4組やねんから、みんな仲間やん。そんなん分けられへんやん。」という言葉が聞こえ感心させられた。

(指導者は色や形で分ける考えしか浮かばなかった)

○ワークショップ形式なので、子どもが素直な気持ちで活動できる雰囲気づくりに努めた。子どもの動きが予想と違い、プログラム数・時間配分等指導案どおりには進まない部分もあった。

○授業後、同じ状況でも人によって感じ方が違うことを、日常の指導に活かすことができた場面もあった。時間とともに授業で学んだ気持ちが損なわれないよう日常生活の様々な場面で指導を続けていきたい。





# 私の「いじめNO！宣言」につなぐ

- 学校名 大東市立住道中学校
- 実施学年 第3学年（138名）
- 実施日時 平成20年2月 【道徳】
- 実施場所 体育館

## 1) 全体の取組みの概要

第59期生の学年目標は、「人の話を大切に 人の心を大切に」である。しかし、「いじめの早期発見と防止のためのアンケート」（10月市共通実施）では、「いじめはあかんと思う。でも、いじめってどこからがいじめかよくわからへん。」という意見もあり、卒業を間近に控えた時期ではあるが、何がいじめか、何が差別かを見抜く力を持つ取組みが必要だと感じていた。

そこで、「新しい出発に向かって、今一度『人を大切にすること』の意味を考えよう！」のテーマのもと、「仲間と共に過ごすこと」「人を大切にすること」の意味を考え、「いじめNO！宣言」をして卒業する取組みを始めた。

「いじめNO！宣言」を作ろう！（全3時間）

- 1 時間目 グループワーク
- 2 時間目 ロール・プレイ（本時）
- 3 時間目 私の「いじめNO！宣言」

## 2) 展開例

- プログラム名 「心の境界線」
- ねらい いじめをなくすためには、同じ状況であっても人によって感じ方が違うということを知る。「これ以上近づかれると嫌な気持ち」になってしまう「心の境界線」は、人によってその距離感が違うことに気づく。

| 時間  | 展開  | 指導上の留意点・工夫                          |
|-----|---|-------------------------------------|
| 10分 | ①前時のふりかえり<br>・3年学年だより第35号の読み合わせ<br>・今日のねらいの説明 |                                     |
| 10分 | ②「心の境界線」って何？→生徒2名をモデルに境界線の説明をする。              | ②境界線は身体的なものだけでなく、心理的なものがあることに気づかせる。 |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 10分  | <p>③こんな時はどう思う?→教員のロールプレイを見て、「心の境界線」を侵害されたと思う2場面を選ぶ。</p> | <p>③学年・学級の日常的場面を教員が演じることで、子どもは集中して見るが、境界線を侵害しがちな子どもや侵害されがちな子どもへの配慮が必要である。</p> |
| <p>A：グループで遊びに行くのに、自分が知らない間に行く場所が決まっていた。<br/>B：運動が苦手なのに、体育大会の長距離走の選手に決まった。<br/>C：見たいテレビ番組があるのに、逆にチャンネルをとられて、見るが出来なかった。<br/>D：Bさんと遊ぶ約束をしていたが、Bさんが急に私の知らないCさんを誘った。<br/>E：夏休みの最後の日に、全然宿題をしていないDさんに急に「宿題を見せて」と頼まれた。<br/>F：家に遊びに来た友だちが、大事にしているMDをむりやり持って帰った。</p> |   |   |
| 5分   | <p>④一人2枚ずつ「イヤイヤシール」を渡し、6場面が掲示されている模造紙に貼る。</p>           |   |
| 10分  | <p>⑤全員が貼ったら、数人にインタビューする。</p>                            |   |
| 5分   | <p>⑥まとめ</p>   | <p>⑥言いにくいことをうまく伝えることができれば、トラブルは乗り越えられることをアドバイスする。</p>                         |

### 3) 子どもの反応

○子どもへのインタビューより

- ・みんな、イヤだと思っ度合いが違うことが分かった。
- ・自分では意識せずに人の嫌がることをしている場合があった。
- ・同じ状況でも、人によって感じ方が違うことが分かった。
- ・いじめをなくすために、自分も友だちも大切にしようと思った。



### 4) 実践者の声

○人によって嫌と思う事柄や度合いが違うことに気づかせ、自分では意識せず人の嫌がることをしている場合があることを少しずつ理解できたと思う。

○いじめをなくすためには、日常から自分の人権を守り、他者の人権も守るという人権意識を、今後身につけさせる必要がある。



**資料**

【第1限目】グループワーク「エリザベスのお部屋を決めて」

ねらい：グループのメンバーが協力し課題を達成することで協力について学び、自分の発言について考える。（人間関係づくりに必要な力を身につける）自分自身で体験の中から発見・再発見・再認識していく。

| 時間  | 展開   | 指導上の留意点・工夫         |
|-----|--|--------------------|
| 5分  | ①実習のねらいの説明<br>・グループワークとは何か<br>・課題のやり方の説明   | なぜ、これをするのかわかりやすく説明 |
| 30分 | ②配られた情報カードをもとに各班のメンバーが協力し課題を達成する<br>情報カード実習「エリザベスのお部屋を決めて」<br>「終わり」の合図で終了。解答を発表する。 | ルールを守ること           |
| 10分 | ③ふりかえりシートを配り、個人で記入する。<br><ふりかえりシート>をもとに、グループ全員でふりかえる。気づいたことを出し合う。                  |                    |
| 5分  | ④まとめ 人と人とのつながりの中で、コミュニケーションが重要な役割であることを伝える。  | 次回につながるようにまとめる。    |

全体のまとめ：人と人とのつながりの中で、コミュニケーションが重要であること、またコミュニケーションって、こんなことなのかなあ・・・ということに少しは気づいてくれたと思う。リーダーシップも大事だし、自己主張（自分の意見を伝える）や情報を組み立てること、協力することも大事である。そういうことを人から学ぶのではなく、自分の体験から感じ、気づくことが、この「グループワーク」のねらいなのである。

【第3限目】私の「いじめNO！宣言」を作ろう

ねらい：卒業を前に、自分たちが最も大切にしなければならないことは、一体何なのか考える。「いじめは絶対に許さない」という決意で、中学校を卒業していくためにも一人ひとりの「いじめNO宣言」を作る。後輩たちに59期生の思いを伝えるために、住中59期生「いじめNO！宣言」を作る。

| 時間  | 展開  | キーワード   |
|-----|---|---|
| 50分 | ①私の「いじめNO！宣言」を作ろう！プリントの配付<br>*読み合わせ *キーワードの確認<br>②自分のキーワードを考える。<br>③「私のいじめNo宣言！」を書く。<br>④学級委員長会で、クラスの子が書いた宣言を読み、59期生の宣言として使いたい文を黒板に書き、それを組み合わせて59期生の宣言を作った。卒業式の答辞の中で後輩に伝えた。 | ▼いじめは絶対に許さない ▼いじめを見抜く目を持とう ▼仲間を信頼しよう ▼いじめはアカンという勇気を持とう ▼一人ひとりを大切にしよう ▼生命の大切さ、人としての尊厳の大切さを確認しよう ▼思いやりの心を持つ ▼自分に責任を持つ ▼感謝の気持ちを忘れない ▼『こころ』のルールを持とう ▼自分の本気が自分の未来を拓きます |



## 住中第59期生 「いじめNO!宣言」

「いじめ」は人を傷つける行為だ  
人によって「心の境界線」はちがう  
自分がなにげなくしていることでも  
他の人には すごくいやに感じることもある

人にはだれにだって良いところが絶対ある  
そういう人の良いところを見つけていこう  
「いじめ」はアカンという勇気を持とう  
一人ひとりを大切にしよう  
仲間とつながっていこう  
お互いに支え合うのが 本当の友だちだ

私たちは「いじめ」を絶対に許さない  
お互いを思いやり 信頼できたら  
きっと「いじめ」もなくなるはず  
人の気持ちをちゃんと考えられる人が  
いちばんカッコいい人間だ

2008年3月7日

大東市立住道中学校 第59期生一同



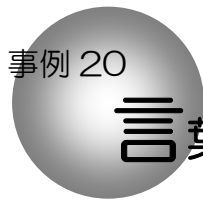
## (5) 仲間とつながる力をはぐくむために

子どもたちが、一方的な思いこみをすることなく、協調的な態度でお互いを理解し、コミュニケーションを図り、互いの信頼関係を築くことが、いじめをなくすための基本的な力となります。

ここで実践されたプログラムは、子どもたちが仲間どうしでつながるために、人間関係づくりに必要な力を身につけることをめざしています。表情・行動による非言語的なコミュニケーションの大切さに気づき、自分の意思を相手に適切に伝える方法を学び、よりの確なコミュニケーション・スキルを身につけることを通して仲間とつながる力をはぐくみます。

### ■ 実践事例 ■

- |       |                                 |             |
|-------|---------------------------------|-------------|
| 事例 20 | 言葉の大切さをロールプレイで実感する (小学校・高学年)    | 阪南市立箱作小学校   |
| 事例 21 | 「私」からはじめるメッセージで自分を伝える (小学校・高学年) | 阪南市立波太小学校   |
| 事例 22 | 教員のロールプレイをもとに考える (中学校・2年生)      | 阪南市立尾崎中学校   |
| 事例 23 | もめ事だって解決できるさ (中学校・2年生)          | 松原市立松原第七中学校 |
| 事例 24 | 相手を感じ、「私メッセージ」を言える人間に (中学校・2年生) | 羽曳野市立誉田中学校  |



# 言葉の大切さをロールプレイで実感する

- 学校名 阪南市立箱作小学校
- 実施学年 第5学年（62名）
- 実施日時 平成19年12月 2時間 【特別活動・道徳】
- 実施場所 各教室

## 1) 全体の取組みの概要

日頃から、なかなか自分の考えを素直にあらわすことが苦手な児童が多く、すぐにきれて友達に対し、言葉や行動の暴力を行ってしまう子どもがいる状況にある。子どもたちのコミュニケーション能力を高めることは、最重要課題である。本校独自の表現力を高めるための集会活動である「発表のいずみ」を年7回実施し、総合的な学習の時間や国語の時間を使ってのスピーチ、発表等、様々な方法で人とのコミュニケーション能力を高める工夫をしてきた。

「いじめ対応プログラムⅠ」を全職員に周知を図り、この「いじめ対応プログラムⅡ」については、伝達講習のための研修会を持ち、生徒指導担当者がファシリテーターとなり、まず教職員にいくつかのプログラムを実施した。その後、全学級において、担任よりその学級の発達段階・特徴に応じたプログラムを選択し、実施した。さらに5年生では、特別活動及び道徳の時間を活用し、プログラムを計画的に実施した。

## 2) 展開例

- プログラム名 「通りすぎる人」
- ねらい コミュニケーションは言葉だけでなく、表情や行動など非言語的な要素からも、相手にメッセージが伝わることに気づかせ、コミュニケーション能力を高める。

| 時間              | 展開  | 指導上の留意点・工夫                                       |
|-----------------|---|--|
| 1限<br>5分<br>10分 | 展開1（状況1を板書）<br>①5～6人班を作る。<br>②2人を選び、状況1のロールプレイをする。                                | ①生活班を活用し、話しやすい雰囲気づくりに配慮する。                       |
|                 | (状況1)足早に歩いているAに気づいてBが声をかけた。しかし、Aは知らないふりをして行ってしまった。<br><br>例.「おい、A君」「やあ、A君」(Bの声かけ) | ②教員が子どもを指名し、A、Bでなく、お互いの名前でロールプレイを行う。(演技であることを確認) |